

II 農業

1 農業の概要

(1) 農家数及び販売農家数

県全域に占める八重山圏域の農家数の割合は6.2%で、また、県の総人口に占める八重山圏域の割合は3.7%となっており、他圏域と比較しても高い割合となっており、農業への依存度が高い地域となっている。

また、専業農家の割合を比較すると、県計では52.6%に対し、八重山地域では53.4%を占めている。圏域別に見ると北部の54.3%が最も高く、次いで八重山、宮古、中部、南部の順となっている。兼業農家の割合では、南部が49.4%と最も高く、次いで宮古、中部、八重山46.6%、北部の順となっており、八重山圏域は、他圏域と比較して専業農家の割合が高い地域となっている。

■農家数及び総人口に占める割合の比較表

区分	圏域					
	県計	北部	中部	南部	宮古	八重山
農家数の割合	100%	24.2%	13.9%	29.0%	26.7%	6.2%
総人口の割合	100%	9.0%	43.3%	40.4%	3.7%	3.7%

資料：2015年農林業センサス、平成27年国勢調査

■販売農家数に占める専業・兼業別農家数とその割合

圏域	区分	販売農家総数	専業農家数	兼業農家数		
				計	第一種	第二種
県	計	14,241 (100%)	7,497 (52.6%)	6,744 (47.4%)	1,889 (13.3%)	4,855 (34.1%)
	北 部	3,534 (100%)	1,919 (54.3%)	1,615 (45.7%)	494 (14.0%)	1,121 (31.7%)
	中 部	1,037 (100%)	548 (52.8%)	489 (47.2%)	153 (14.8%)	336 (32.4%)
	南 部	3,529 (100%)	1,787 (50.6%)	1,742 (49.4%)	586 (16.6%)	1,156 (32.8%)
	宮 古	4,967 (100%)	2,616 (52.7%)	2,351 (47.3%)	458 (9.2%)	1,893 (38.1%)
	八 重 山	1,172 (100%)	626 (53.4%)	546 (46.6%)	198 (16.9%)	348 (29.7%)
	石 垣 市	782 (100%)	440 (56.3%)	342 (43.7%)	132 (16.9%)	210 (26.9%)
	竹 富 町	214 (100%)	142 (66.4%)	72 (33.6%)	36 (16.8%)	36 (16.8%)
	与 那 国 町	176 (100%)	44 (25.0%)	132 (75.0%)	30 (17.0%)	102 (58.0%)

資料：2015年農林業センサス

(2) 年齢別農業就業人口

八重山の農業就業人口は1,582人で、平成22年の調査より283人減少し、減少率は15.2%となっている。

一方、21世紀の農業を担う29歳以下の若年層については、平成17年に7.3%を占めていたが、平成22年は3.5%に減少、平成27年は3.7%と微増となったものの依然低い状況である。特に、離島地域においては深刻であり、竹富町で11名、与那国町で9名と農業の担い手不足が大きな課題となっている。

■年齢別農業就業人口（販売農家）

単位：人

区分		計	15～29歳	30～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
県計	平成22年	22,575 (100%)	547 (2.7%)	2,665 (13.4%)	4,377 (22.0%)	2,657 (13.3%)	12,329 (61.9%)
	平成27年	19,916 (100%)	616 (3.1%)	2,040 (10.2%)	3,356 (16.9%)	3,143 (15.8%)	10,761 (54.0%)
八重山計	平成22年	1,865 (100%)	56 (3.5%)	238 (15.0%)	425 (26.9%)	234 (14.8%)	912 (57.6%)
	平成27年	1,582 (100%)	59 (3.7%)	199 (12.6%)	299 (18.9%)	253 (16.0%)	772 (48.8%)
石垣市	平成22年	1,304 (100%)	34 (3.0%)	147 (13.0%)	276 (24.4%)	173 (15.3%)	674 (59.5%)
	平成27年	1,132 (100%)	39 (3.4%)	134 (11.8%)	201 (17.8%)	171 (15.1%)	587 (51.9%)
竹富町	平成22年	418 (100%)	18 (5.8%)	67 (21.4%)	121 (38.7%)	38 (12.1%)	174 (55.6%)
	平成27年	313 (100%)	11 (3.5%)	54 (17.3%)	75 (24.0%)	54 (17.3%)	119 (38.0%)
与那国町	平成22年	143 (100%)	4 (2.9%)	24 (17.5%)	28 (20.4%)	23 (16.8%)	64 (46.7%)
	平成27年	137 (100%)	9 (6.6%)	11 (8.0%)	23 (16.8%)	28 (20.4%)	66 (48.2%)

資料：2015年農林業センサス

注：販売農家とは、経営耕地面積が30アール以上又は農作物販売金額が50万以上の農家をいう。

(3) 耕地面積

八重山の農用地は減少傾向が続いており、平成26年の7,990haから令和元年には7,801haと減少している。特色として、田が全県の約56.9%を占めている。

■令和元年圏域別面積と耕地面積

圏域	区分	市町村面積 (km ²) ①	耕地面積 (ha)					耕地率 (%) ②/①	
			②	田 (ha)	畑 (ha)				
					小計	普通畑	樹園地		牧草地
県	計	2,281 (100%)	37,500 (100%)	822 (100%)	36,700 (100%)	28,900	1,890	5,870	16.4
	北部	825 (36.2%)	7,200 (19.2%)	303 (36.9%)	6,900 (18.8%)	8.7
	中部	283 (12.4%)	2,400 (6.4%)	33 (4.0%)	2,360 (6.4%)	8.5
	南部	353 (15.5%)	8,500 (22.7%)	16 (1.9%)	8,480 (23.1%)	24.1
	宮古	226 (9.9%)	11,600 (30.9%)	—	11,600 (31.6%)	51.3
八重山	計	592 (26.0%)	7,801 (20.8%)	468 (56.9%)	7,326 (20.0%)	13.2
	石垣市	229.2 (38.7%)	5,300 (67.9%)	318 (67.9%)	4,980 (68.0%)	23.1
	竹富町	334.4 (56.4%)	1,990 (25.5%)	85 (18.2%)	1,900 (25.9%)	6.0
	与那国町	28.9 (4.9%)	511 (6.6%)	65 (13.9%)	446 (6.1%)	17.7

資料：第48次沖縄農林水産統計年報、令和元年10月1日現在 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町別面積調」

注1：石垣市の面積には、尖閣諸島の面積（5.53km²）を含む。

注2：ラウンドの結果、計と内訳が一致しない箇所がある。

注3：平成19年調査から畑の種類別の取りまとめなし。

■八重山の耕地面積推移

単位：ha

年度	区分	計	田	畑			
				小計	普通畑	樹園地	牧草地
平成27年		7,990	493	7,500	…	…	…
平成28年		7,930	485	7,450	…	…	…
平成29年		7,900	470	7,430	…	…	…
平成30年		7,870	468	7,400	…	…	…
令和元年		7,800	468	7,330	…	…	…

資料：第48次沖縄農林水産統計年報

注：平成19年調査から畑の種類別の統計データ公表なし。

(4) 経営耕地面積規模別経営体数

各圏域の経営耕地面積規模ごとの経営体数（販売農家）の割合を比較すると、5ha以上経営する割合は、各圏域で6%以下であるが、八重山地域では20%を超える。また、八重山圏域では、竹富町が40.2%で最も大きく、次いで石垣市の20.1%、与那国町の14.2%となっている。

■平成27年経営耕地面積規模別経営体数（販売農家）

単位：人

圏域	区分	総経営体数	経営規模				
			1 ha未満	1～2 ha	2～3 ha	3～5 ha	5 ha以上
県	計	14,241 (100%)	7,345 (51.6%)	3,504 (24.6%)	1,485 (10.4%)	1,126 (7.9%)	781 (5.5%)
	北 部	3,534 (24.8%)	2,163 (61.2%)	822 (23.3%)	252 (7.1%)	182 (5.1%)	115 (3.3%)
	中 部	1,038 (7.3%)	830 (80.0%)	134 (12.9%)	31 (3.0%)	32 (3.1%)	10 (1.0%)
	南 部	3,530 (24.8%)	2,475 (70.1%)	568 (16.1%)	150 (4.2%)	151 (4.3%)	185 (5.2%)
	宮 古	4,967 (34.9%)	1,604 (32.3%)	1,737 (35.0%)	878 (17.7%)	545 (11.0%)	203 (4.1%)
八重山	計	1,172 (8.2%)	271 (23.1%)	243 (20.7%)	174 (14.8%)	216 (18.4%)	268 (22.9%)
	石垣市	782 (100%)	166 (21.2%)	184 (23.5%)	126 (16.1%)	149 (19.1%)	157 (20.1%)
	竹富町	214 (100%)	21 (9.8%)	30 (14.0%)	25 (11.7%)	52 (24.3%)	86 (40.2%)
	与那国町	176 (100%)	84 (47.7%)	29 (16.5%)	23 (13.1%)	15 (8.5%)	25 (14.2%)

資料：2015年農林業センサス

注：「販売農家」とは、経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。

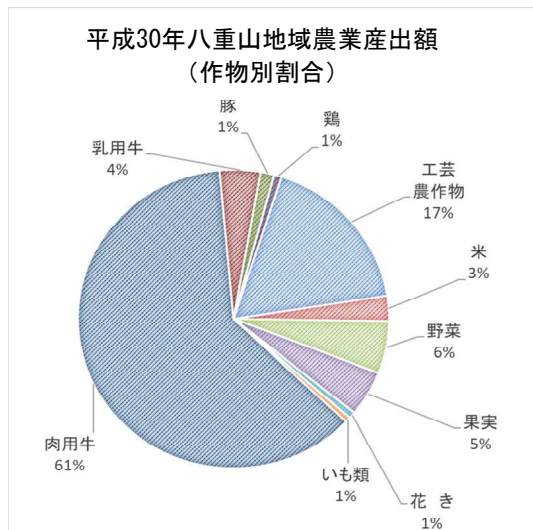
(5) 平成30年沖縄県市町村別農業算出額

■平成30年沖縄県市町村別農業産出額（推計）

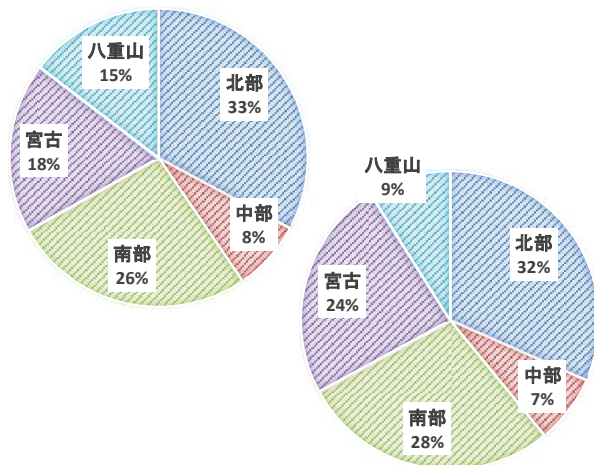
単位：1,000万円

市町村	農業 産出額 ①+②+③	耕 種											畜 産					加工 農産物 ③	
		小 計 ①	米	麦 類	雑 穀	豆 類	いも類	野 菜	果 実	花 き	工芸 農作物	その他 作物	小 計 ②	肉用牛	乳用牛	豚	鶏		その他 畜産物
県計	9,676	5,336	57	0	4	5	126	1,573	601	873	2,053	44	4,338	2,233	360	1,184	546	15	2
北部	3,245	1,703	18	0	0	0	24	439	351	532	286	34	1,541	436	32	707	269	12	1
名護市	705	414	3	x	-	-	2	116	102	141	40	x	290	24	8	117	141	1	1
国頭村	425	93	0	-	-	-	1	11	44	19	11	7	332	23	-	305	-	4	0
大宜味村	193	66	0	x	0	0	-	19	32	11	3	x	128	0	4	78	45	-	0
東 村	227	123	-	-	-	-	0	29	54	16	2	22	104	0	-	97	-	6	0
今帰仁村	346	261	-	x	-	-	3	113	28	99	15	x	86	76	-	9	0	1	0
本部町	201	97	-	-	-	0	4	27	24	35	6	1	104	67	-	x	1	x	0
恩納村	199	143	1	x	-	-	0	15	28	88	8	x	56	11	-	12	33	0	0
宜野座村	189	94	0	-	-	-	3	34	23	15	15	4	95	15	0	x	33	x	0
金武町	190	66	4	x	0	-	1	12	12	31	4	x	124	10	9	89	16	-	0
伊江村	455	255	-	x	0	0	7	51	1	77	118	x	200	188	11	-	0	-	0
伊平屋村	48	34	5	-	0	-	3	5	3	-	-	-	13	13	0	-	0	0	-
伊是名村	67	57	5	-	-	-	0	7	0	-	-	-	9	9	-	-	-	0	-
中部	754	403	0	0	0	4	35	112	31	162	55	0	352	119	45	87	49	0	0
宜野湾市	19	11	-	-	-	-	0	4	1	6	0	0	8	1	-	x	0	x	0
浦添市	13	4	-	-	-	-	0	1	2	x	1	x	9	1	-	x	-	x	0
沖縄市	154	36	-	-	-	-	0	10	5	20	1	0	118	6	45	35	32	0	-
うるま市	290	154	0	x	0	4	10	29	11	72	27	x	137	87	-	41	8	0	0
読谷村	139	109	-	x	-	-	23	18	3	50	15	x	30	12	-	11	7	0	-
嘉手納町	8	4	-	-	0	-	0	2	0	x	1	x	4	3	-	x	-	x	-
北谷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北中城村	10	9	-	-	-	-	0	4	1	3	1	0	1	-	-	-	1	-	0
中城村	76	42	-	-	0	0	0	20	5	11	6	0	34	-	-	x	0	x	-
西原町	45	34	-	-	-	-	2	24	3	x	3	x	11	9	-	x	1	x	-
南部	2,610	1,510	0	0	1	0	49	752	100	169	431	6	1,099	285	223	370	208	2	0
那覇市	146	49	-	-	-	-	-	26	16	6	1	1	96	1	-	45	50	-	0
糸満市	486	300	-	-	0	-	6	180	9	66	37	1	186	85	13	82	5	1	0
豊見城市	160	122	-	-	-	0	0	95	19	5	1	1	38	7	32	-	-	0	0
南城市	568	244	0	x	-	-	1	174	22	17	29	x	324	37	123	49	114	1	0
与那原町	8	5	-	-	-	-	-	3	2	-	0	0	3	2	-	x	-	x	-
南風原町	111	83	-	-	-	-	2	53	14	12	2	1	27	1	15	x	-	x	-
八重瀬町	503	200	-	-	-	-	7	111	12	37	32	1	304	32	40	194	38	0	0
久米島町	322	214	0	-	1	-	32	31	6	26	118	1	108	107	-	x	1	x	0
渡嘉敷村	0	0	0	-	-	-	-	-	-	x	0	x	0	-	-	x	0	x	0
座間味村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粟国村	19	6	-	-	0	-	-	1	-	-	5	-	13	13	-	-	-	-	0
渡名喜村	1	1	-	-	0	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南大東村	215	215	-	-	-	-	-	56	-	-	158	-	-	-	-	-	-	-	0
北大東村	71	71	-	-	0	-	1	21	-	-	48	-	-	-	-	-	-	-	-
宮古	1,828	1,293	0	0	3	1	10	190	49	0	1,034	4	534	525	0	0	9	0	0
宮古島市	1,638	1,231	-	x	3	1	10	188	49	x	974	4	406	397	-	x	9	x	0
多良間村	190	62	-	-	-	0	-	2	-	-	60	0	128	128	-	x	-	x	0
八重山	1,444	481	39	0	0	0	8	80	70	10	247	0	961	868	60	20	11	1	1
石垣市	1,135	342	32	x	-	-	7	66	53	10	157	x	792	708	52	20	11	1	0
竹富町	275	107	6	-	0	0	1	9	16	x	65	x	167	159	8	-	0	0	0
与那国町	34	32	1	-	-	-	0	5	1	-	25	0	2	1	-	x	0	x	1

資料：平成30年市町村別農業産出額（推計） 農林水産省



平成30年沖縄県地域別産出額（作物別割合）



平成30年沖縄県地域別産出額（耕種別割合）

2 農作物

(1) さとうきび

- 八重山地域における令和元/2年期のさとうきび生産量は95,727 tで、前期に対して28,279 tの減少となった。県全体に占める生産量の割合は14.2%であり、前年より2.5%減少した。収穫面積は1,857haと前期より71ha減少し、10a当たりの収量は5,155kgと前期より1,278kg減少した。
作型別では、八重山地域全体の生産量に占める夏植の割合は42.7%（前期50.4%）、春植8.2%（前期8.4%）、株出49.1%（前期41.2%）であり、株出の割合が増加傾向にある。台風被害に強く安定した収入が確保できる夏植えを主流とし、土壌害虫等に対して効果的な防除農薬の普及により安定した株出栽培が可能となった。
- さとうきび原料の工場買い入れ価格は、平成6年度から甘蔗糖度を基準とした品質取引へと移行された。八重山地域の平均甘蔗糖度は、分みつ糖が14.7度、含みつ糖15.2度で、平均が14.9度となり、前年の14.4度より高くなった。八重山地域の農家手取額はトン当たり22,520円となり、前期の22,062円より増額となった。

令和元/2年期 さとうきび作型別生産実績

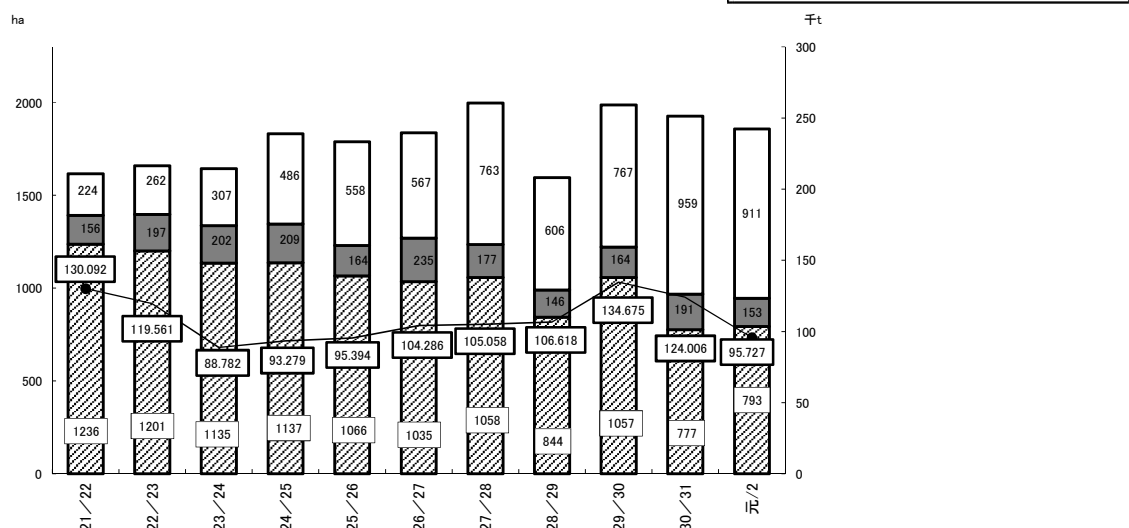
工場名	夏植			春植			株出			合計			前期(30/31)合計		
	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)
県計	3,500 (27.1)	6,499	227,463 (33.7)	1,196 (9.3)	4,824	57,690 (8.5)	8,205 (63.6)	4,761	390,673 (57.8)	12,901 (100.0)	5,239	675,827 (100.0)	13,145 (100.0)	5,649	742,584 (100.0)
沖縄本島	189 (7.8)	6,326	11,957 (11.3)	318 (13.1)	4,109	13,082 (12.4)	1,912 (79.0)	4,228	80,843 (76.4)	2,419 (18.8)	4,376	105,882 (15.7)	2,695 (20.5)	4,689	126,352 (17.0)
石垣島製糖	495 (38.2)	6,578	32,536 (48.5)	135 (10.4)	4,659	6,279 (9.4)	667 (51.5)	4,241	28,286 (42.2)	1,296 (10.0)	5,176	67,102 (9.9)	1,387 (10.6)	6,497	90,100 (12.1)
竹富町小浜製糖工場	31 (53.4)	5,165	1,621 (66.1)	3 (5.2)	3,477	107 (4.4)	23 (39.7)	3,134	724 (29.5)	58 (0.4)	4,260	2,452 (0.4)	70 (0.5)	4,775	3,319 (0.4)
西表糖業	78 (43.6)	7,098	5,526 (52.8)	13 (7.3)	4,472	563 (5.4)	88 (49.2)	4,946	4,376 (41.8)	179 (13.8)	5,849	10,465 (1.5)	172 (12.4)	6,919	11,898 (1.6)
波照間製糖	143 (66.2)	6,143	8,769 (77.0)	3 (1.4)	3,551	92 (0.8)	70 (32.4)	3,589	2,519 (22.1)	216 (1.7)	5,280	11,381 (1.7)	192 (1.5)	6,376	12,243 (1.6)
JA与那国製糖工場	46 (42.2)	5,139	2,384 (55.1)	0 (0.0)	0	0 (0.0)	62 (56.9)	3,123	1,943 (44.9)	109 (0.8)	3,984	4,327 (0.6)	107 (0.8)	6,005	6,445 (0.9)
八重山計	793 (42.7)	6,411	50,837 (53.1)	153 (8.2)	4,601	7,042 (7.4)	911 (49.1)	4,155	37,848 (39.5)	1,857 (14.4)	5,155	95,727 (14.2)	1,928 (14.7)	6,433	124,006 (16.7)

資料：「さとうきび及びび甘しゃ糖生産実績」 沖縄県農林水産部 令和2年8月

注：(斜体)は、合計は県計に対するもので、作型別は各地域内の比率である。四捨五入による端数調整のため合計と内訳が合わない場合がある。

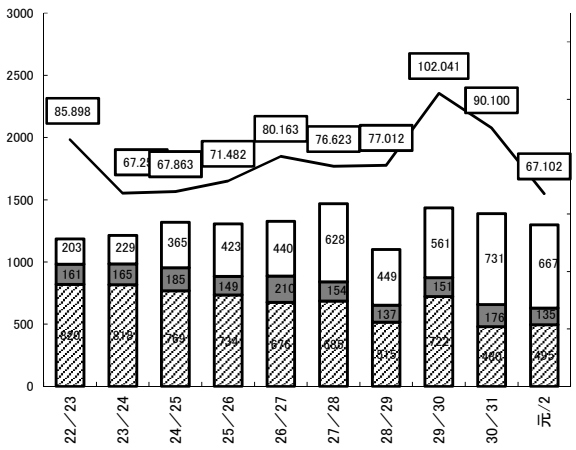
さとうきびの作型別収穫面積、生産量の推移

八重山圏域

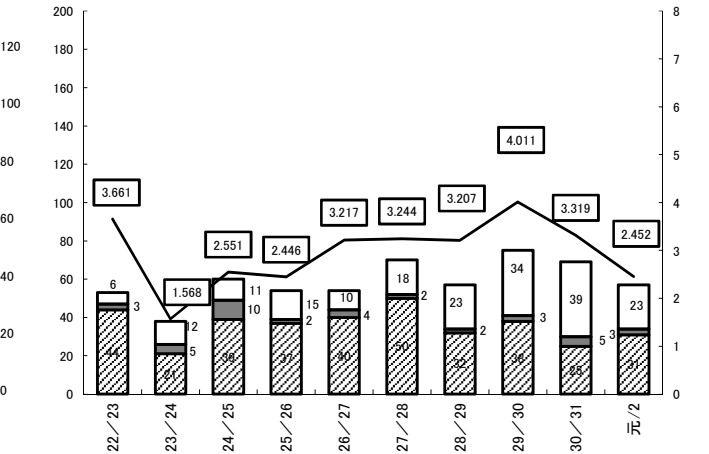


地域別の推移

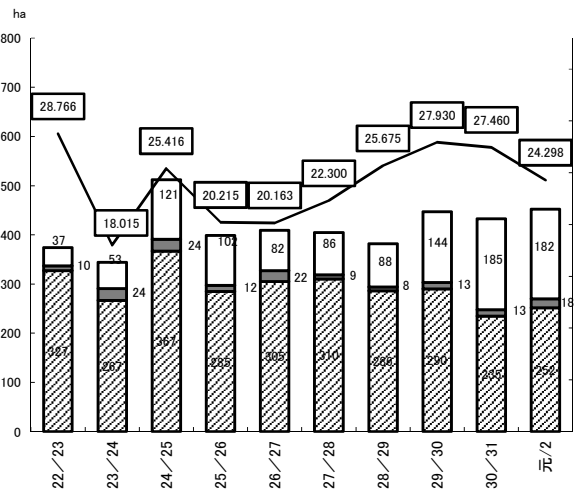
石垣市



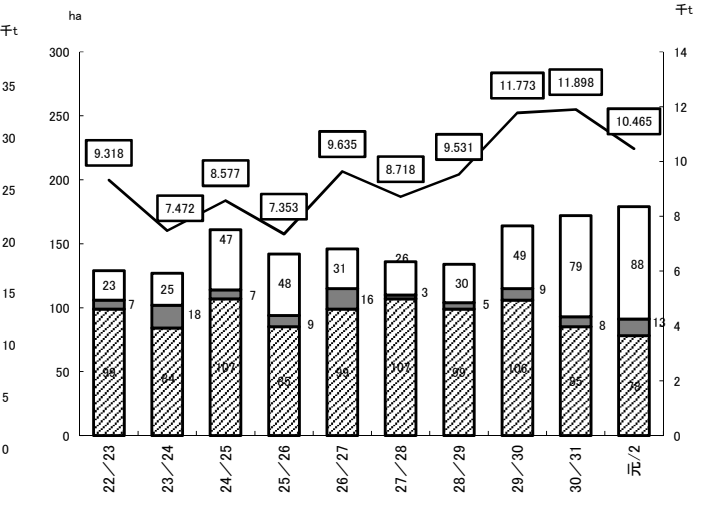
小浜島



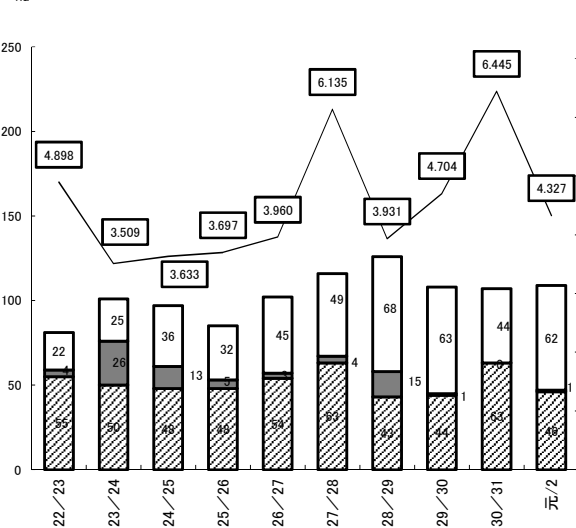
竹富町



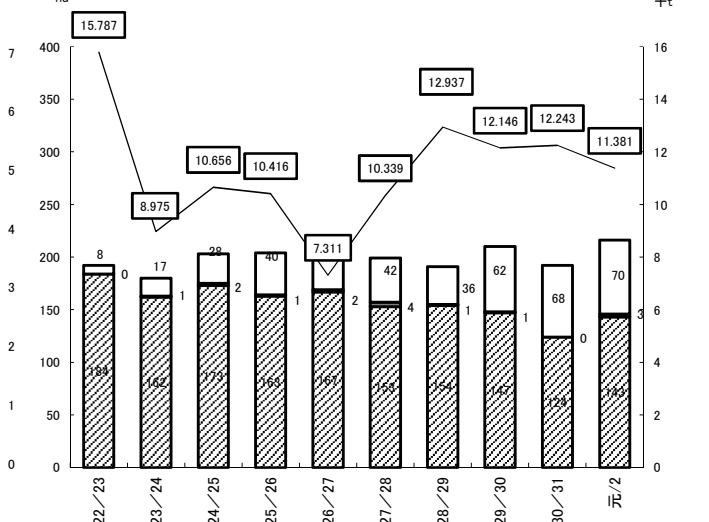
西表島



与那国町



波照間島



資料:「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」 沖縄県農林水産部 令和2年8月

令和元／2年期 製糖実績

単位：t

工場名	製糖期間			製糖実績			前期(30/31)実績		
	製糖開始	製糖終了	製糖日数	原料処理量	歩留(%)	産糖量	原料処理量	歩留(%)	産糖量
県計	—	—	—	675,827	11.93	80,647	741,777	11.32	83,999
石垣島製糖	R1.12.11	R2.4.18	130	67,102	12.15	8,153	90,100	11.13	10,027
JA小浜製糖工場	R2.1.21	R2.3.16	57	2,452	13.33	327	3,319	11.13	369
西表糖業	R1.12.5	R2.4.15	127	10,465	14.51	1,519	11,898	13.93	1,658
波照間製糖	R1.12.5	R2.3.31	110	11,381	14.66	1,668	12,243	14.92	1,827
JA与那国製糖工場	R1.12.9	R2.3.24	105	4,327	10.91	472	5,639	11.06	624
八重山計	—	—	—	95,727	13.11	12,139	123,199	12.43	14,505

資料:「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」沖縄県農林水産部 令和2年8月

令和元／2年期 さとうきび品質取引実績

工場名	甘蔗糖度(度)			甘蔗糖度区分ごとの重量、比率(t、%)							
				13.0度以下		13.1～13.6		13.7～14.3		14.4度以上	
	平均	最低	最高	重量	比率	重量	比率	重量	比率	重量	比率
県計	14.7	8.0	19.9	62,463	9.2	68,406	10.1	124,910	18.5	420,048	62.2
石垣島製糖	14.7	8.5	18.7	3,873	5.8	5,598	8.3	13,254	19.8	44,377	66.1
JA小浜製糖工場	14.6	12.0	17.3	125	5.1	250	10.2	662	27.0	1,417	57.7
西表糖業	15.4	10.4	18.3	141	1.3	391	3.7	1,090	10.4	8,843	84.5
波照間製糖	16.1	13.0	18.4	5	0.0	99	0.9	296	2.6	10,980	96.5
JA与那国製糖工場	13.0	8.3	17.9	2,109	48.7	794	18.3	724	16.7	701	16.2
八重山計	14.9	8.3	18.7	6,254	6.5	16,185	16.9	16,024	16.7	66,318	69.3

資料:「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」沖縄県農林水産部 令和2年8月

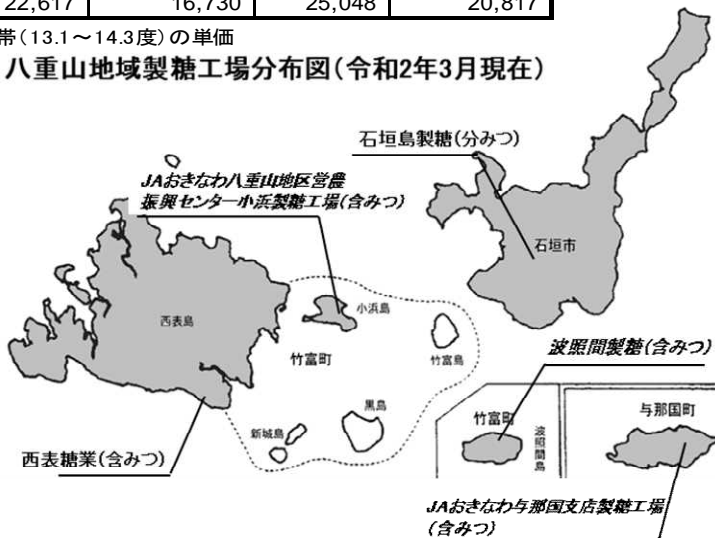
さとうきび平均農家手取額の推移(円/トン)

年期	分みつ糖(石垣市)		含みつ糖(竹富町)	含みつ糖(与那国町)
	計	甘味資源作物交付金		
26/27	22,477	16,420	21,797	19,636
27/28	20,378	16,420	20,851	18,260
28/29	22,638	16,420	22,123	19,346
29/30	21,953	16,420	20,337	20,738
30/31	22,097	16,630	22,164	20,993
元/2	22,617	16,730	25,048	20,817

資料:「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」
沖縄県農林水産部 令和2年8月

※基準糖度帯(13.1～14.3度)の単価

八重山地域製糖工場分布図(令和2年3月現在)

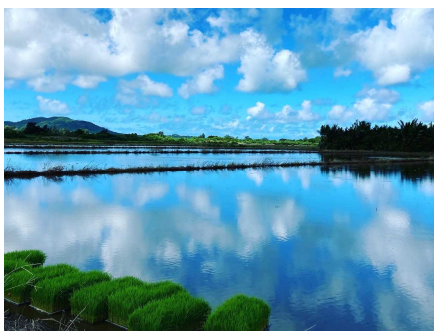


(2) 水 稻

八重山地域は、県内稲作の主要産地である。令和元年の水稲作付面積は一期、二期合わせて460haと県全体の67.9%を占め、収穫量は1,290tと県全体の64.5%を占めている。

一期作の10a当たり収量は314kgで、県平均の331kgよりは低い。二期作は9月上旬までの植え付けのため台風被害を受ける可能性が高く、収量・歩留まりが低い等の理由により、近年では一期作の3割程度の作付となっている。

温暖な気候を活かし、一期作は6月に新米を出荷できる「超早場米」として、他の産地より有利販売が可能である。主要品種は、食味に優れた「ひとめぼれ」が生産されており、西表地区では、平成26年二期作より、低アミロース品種である「ミルクィーサー」の栽培に取り組んでおり、ブランド化が期待される。消費者の食の安全性への関心の高まりもあり、エコファーマー認定、特別栽培農産物の認証を受けるなど、多様な消費者ニーズに対応した米作りが行われている。



田植前の風景



主要品種:ひとめぼれ

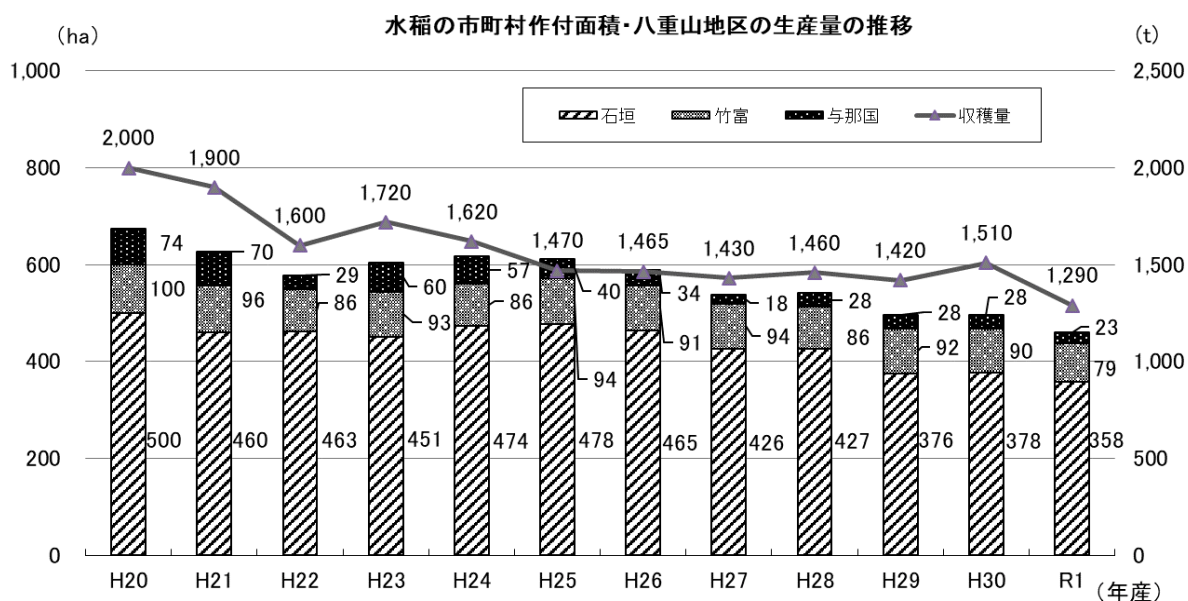
令和元年産水稲の生産実績

	作付面積(ha)			10aあたり収量(kg)			収穫量(t)		
	計	1期作	2期作	平均	1期作	2期作	計	1期作	2期作
県計	677	506	171	295	331	188	2,000	1,670	321
石垣市	358	263	95	287	330	167	1,030	868	159
竹富町	79	67	12	275	299	138	217	200	17
与那国町	23	23	-	181	181	-	42	42	-
八重山計	460 (67.9)	353 (69.8)	107 (62.6)	279	314	164	1,290 (64.5)	1,110 (66.5)	176 (54.8)

資料: 第48次沖縄農林水産統計年報

注: 斜体は県計に占める割合

水稲の作付面積と生産量の推移



資料: 第48次沖縄農林水産統計年報

(3) 野菜

八重山地域の野菜生産は、平成5年のウリミバエ根絶を契機に、温暖な気候特性を活かした冬春期の県外出荷を中心に進展してきた。近年はオクラ、カボチャ、ゴーヤー、サヤインゲンの4品目を中心に県外出荷が行われており、令和元年度のJAおきなわ八重山地区営農振興センター管内の上記4品目の出荷は約179t、123,749千円となっている。平成18年に石垣市のオクラが、平成26年に竹富町のカボチャが拠点産地に認定され、平成25年に設立・再編された石垣市及び竹富町の園芸作物等産地協議会を中心に、生産性の向上と八重山ブランドの確立に向けた取り組みを行っている。

一方で平成23年にはJAファーマーズマーケット「ゆらていく市場」が開設され、島内でもより新鮮で多様な野菜の生産と供給が可能になった。令和元年度の野菜類販売額は204,174千円と、地産地消の推進と地域経済の活性化に大きく寄与している。



オクラ栽培状況



カボチャ栽培状況



ゴーヤー栽培状況

令和元年産主要県外出荷品目の栽培面積と出荷量

品 目	オクラ		カボチャ		ゴーヤー	サヤインゲン
	石垣市	竹富町	石垣市	竹富町	石垣市	石垣市
栽培面積 (ha)	12.0	10.0	6.0	10.0	2.2	0.31
出荷量 (t)	61.7	43.5	23.0	43.5	46.7	4.4

※JAおきなわ八重山地区営農振興センター取扱い
 ※出荷実績は、H31年4月～R2年3月の集計

(4) 果 樹

主要品目のマンゴーは、リース事業の導入等で栽培面積が増加傾向にあり、平成30年は結果樹面積26ha、収穫量153 tとなっている。その多くが個撰個販で、樹上完熟させた高品質の果実を宅配便等を利用して消費者に直接届けている。平成20年に発足した八重山マンゴー研究会では、技術向上のための勉強会が定期的実施され、収量や品質が向上してきている。平成25年にはJ Aマンゴー部会も設立され、全員がエコファーマー認定を受けるなど独自の取組を進めている。他にもバナナやパイヤをはじめ多様な熱帯果樹が栽培されているが、生産量は多くない。



マンゴー栽培状況

八重山圏域主要果樹(パイナップルを除く)の生産の推移

単位:ha、t

	バナナ			パイヤ			マンゴー		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成26年	15	82	82	4	12	12	23	189	189
平成27年	6	48	48	1	13	13	24	209	209
平成28年		41	41		6	6	26	132	126
平成29年	6	40	40	1	6	6	27	216	216
平成30年	6	38	38	1	5	5	26	153	153
	ドラゴンフルーツ			パッションフルーツ			シークワサー		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成26年	3	53	53	3	16	16	4	18	18
平成27年	2	38	38	3	16	16	0	18	18
平成28年	2	28	28	3	11	11	0	0	0
平成29年	2	29	29	3	11	11	0	0	0
平成30年	2	29	29	3	10	10	0	0	0

資料:「沖縄県の園芸・流通」沖縄県農林水産部 令和3年1月

(5) パインアップル

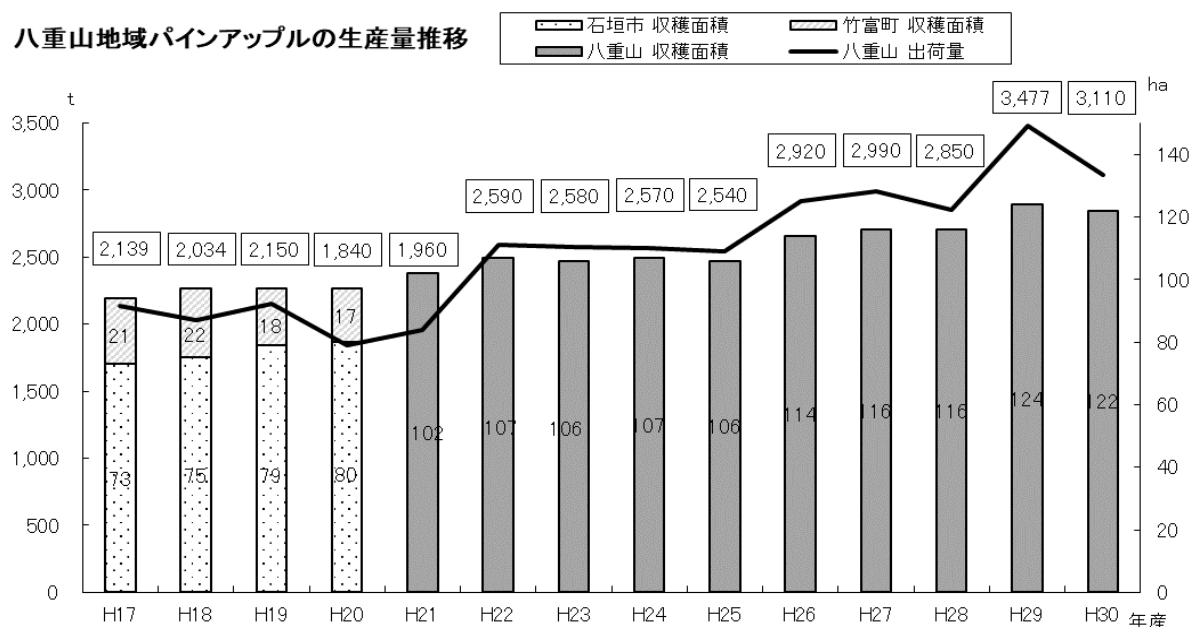
八重山産（主に石垣島、西表島）パインアップルは加工場閉鎖により一時衰退傾向にあったが、近年は生食用パインアップルの需要の高まりから栽培面積、出荷量ともに増加しており、平成29年以降は3千トンを上回っている。県内生産に占める八重山産の割合は、収穫面積で38.2%、出荷量で42.0%であり、その大半が生食向けである。栽培品種はボゴール、ソフトタッチ、ハワイ種（N67-10等）が主であるが、新品種のジュリオスターやゴールドバレル、沖農P17（商標名サンドルチェ）の種苗も徐々に供給が進み、品種構成が多様化している。

平成30年産パインアップル生産状況

	収穫面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	出荷量(t)	
				計	生食向け
県計	319	2,301	7,340	7,160	2,380
沖縄本島	195	2,149	4,190	4,120	2,230
八重山	122 (38.2)	2,549	3,110 (42.4)	3,010 (42.0)	148 (6.2)

資料：「沖縄県の園芸・流通」沖縄県農林水産部 令和3年1月 注：(斜体)は県計に占める割合

八重山地域パインアップルの生産量推移



パインアップル主要品種の特徴

	ハワイ種	ソフトタッチ	ボゴール
収穫期	6月中旬～8月上旬	5月中旬～7月上旬	5月下旬～7月上旬
平均果実重	約1,000g	約800g	約800g
果形	たる型	たる型	たる型
果肉	黄白色	帯黄白色	黄色
食味	糖度は15%、酸度は0.9% 甘酸っぱい食味で、果汁が豊富	糖度は17%、酸度は0.7% 桃のような独特の香りがあり、さわやかな食味が特徴	糖度は17%、酸度は0.8% 酸の抜けがよいため、甘みを強く感じる
栽培	栄養芽の発生がよいため、2回収穫が可能。花芽誘導処理は効きにくい	栄養芽の発生がよいため、2回収穫が可能。花芽誘導処理は効きやすい	栄養芽の発生がよいため、2回収穫が可能。花芽誘導処理は効きやすい
その他	加工生食用。沖縄県の主要な栽培品種	生食用。黒目症発症率が他品種より高い	生食用。草本や冠葉にとげがある
	ジュリオスター	ゴールドバレル	沖農P17
収穫期	6月下旬～9月中旬	5月下旬～7月上旬	5月上旬～8月中旬
平均果実重	約1,200g	約1,400g	約1,100g
果形	たる型	円筒型	たる～円筒形
果肉	黄白色	黄色	黄白色
食味	糖度16%、酸度は0.6% 果汁がよく食味が良い。	糖度16.5%、酸度は0.5% 糖酸比が高く、肉質も軟らかい。	糖度は19%、酸度は0.6% 極高糖で食味がよいのが特徴
栽培	栄養芽でえい芽は多いが、吸芽は少ない。花芽誘導処理は効きやすい。	栄養芽の発生が少ないため、種苗の確保が困難。花芽誘導処理は効きやすい	栄養芽の発生がよいため、2回目収穫が可能。花芽誘導処理は効きやすい
その他	生食用。黒目症、花権病の発生が少ない。	生食用。県産のバインで最も高価格で販売されている品種	生食用。耐倒伏性があることから栽培性に優れる

資料提供：農業研究センター石垣支所

(6) 花き

八重山地域の花き生産は、温暖な気候を活かし、レッドジンジャー、ヘリコニア、洋ラン、切葉類等の夏季県外出荷品目を中心に取り組まれている。平成30年の花き栽培面積は12.3haで、切り花類の出荷数量が150.5万本であり、出荷数量は前年よりも減少した。

石垣市はヘリコニア、レッドジンジャーの県内有数の産地であり、平成19年に拠点産地に認定された。品質の高さは市場からも高い評価を得ている。洋ランは、デンファレを中心とした施設栽培が行われ、島内需要も高い。

平成25年3月の新石垣空港の開港に伴い、「南国の花でいっぱいの石垣島」を観光客へPRしている。

石垣市花き類生産実績の推移

単位：a、千本、千円

種類名	H26年産			H27年産			H28年産			H29年産			H30年産		
	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額
デンファレ	2	42	2,121	2	42	2,121	2	38	1,919	20	40	1,970	95	46	2,162
洋ラン類小計	2	42	2,121	2	42	2,121	2	38	1,919	20	40	1,970	95	46	2,162
ストレリチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘリコニア	447	812	19,167	447	1,039	23,411	447	1,032	28,350	447	883	25,879	447	852	25,756
レッドジンジャー類	387	305	21,296	387	296	20,657	387	306	21,368	387	325	22,708	387	311	21,535
ウイキョウ	50	66	3,300	50	73	3,663	50	72	3,613	26	32	1,657	26	30	1,567
一年草・多年草小計	884	1,183	43,783	884	1,408	47,731	884	1,410	53,331	860	1,240	50,244	860	1,193	48,858
アレカヤシ	40	22	75	28	15	420	28	10	35	40	23	81	40	22	75
ドラセナ類	145	177	7,001	148	233	9,196	148	247	9,750	132	185	7,414	132	176	7,211
タニワタリ	10	10	170	10	10	170	10	4	68	12	9	151	12	9	154
オクラレルカ	3	3	77	3	3	68	3	3	65	1	1	20	1	1	20
糸芭蕉	50	14	350	50	11	350	50	9	286	26	5	167	26	5	164
その他葉もの	79	95	1,717	77	48	859	77	55	984	62	51	933	62	53	961
葉もの小計	327	321	9,390	316	320	11,063	316	328	11,188	273	274	8,766	273	266	8,585
クルクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アマゾンリリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
球根切花類小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他切花類小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①切花類 計	1,213	1,546	55,274	1,202	1,770	60,915	1,202	1,776	66,438	1,153	1,554	60,980	1,228	1,505	59,605
②鉢物類計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(①+②)	1,213	1,546	55,274	1,202	1,770	60,915	1,202	1,776	66,438	1,153	1,554	60,980	1,228	1,505	59,605

資料：「沖縄県の園芸・流通」 沖縄県農林水産部 令和3年1月



ヘリコニア栽培状況



レッドジンジャー栽培状況



(7) 葉たばこ

八重山（石垣市）の令和2年産葉たばこの収穫量は前年比18%（22t）の減となっており、生産額は前年比で約12%（27,922千円）減少している。

過去直近3年平均との比較では、収穫量は約24%（31t）減、生産額は13%（29,548千円）の減となっている。



葉たばこ栽培状況（石垣市）

令和2年度葉たばこの生産状況

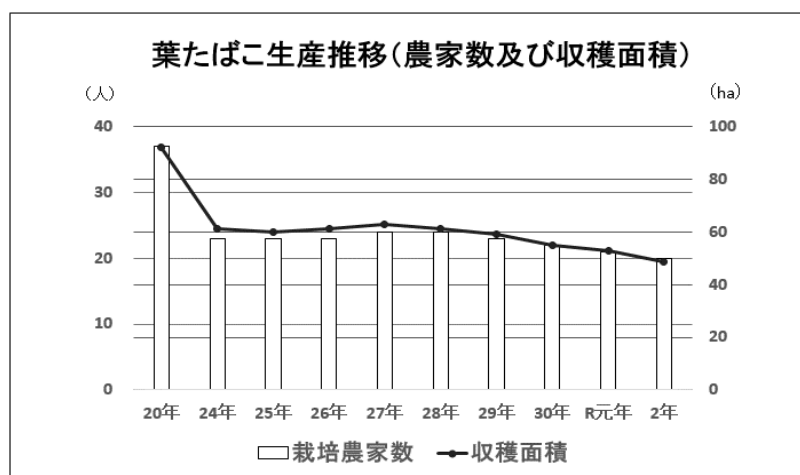
項目 地域別	栽培農家数 (人)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	10a当たり 収量(kg)	1kg当たり 平均価格(円)	生産額 (千円)
県計	(100.0%) 205	(100.0%) 772	(100.0%) 1,685	218	2,052	(100.0%) 3,486,094
八重山 (石垣市)	(9.8%) 20	(6.3%) 49	(5.8%) 98	201	2,102	(5.9%) 205,365
宮古島市	(51.7%) 106	(56.1%) 433	(55.7%) 938	217	2,039	(56.2%) 1,960,216
多良間村	(4.4%) 9	(2.8%) 22	(2.7%) 45	209	1,825	(2.7%) 94,109
本島 (伊江島・久米島含む)	(34.1%) 70	(34.9%) 269	(35.8%) 604	224	2,113	(35.2%) 1,226,404

資料：沖縄県糖業農産課

葉たばこの生産の推移(石垣市)

項目 年次	栽培農家数 (人)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	10a当たり 収量(kg)	1kg当たり 平均価格(円)	生産額 (千円)
20年	37	92	137	149	1,706	234,266
24年	23	61	121	197	1,975	238,118
25年	23	60	120	199	2,090	250,851
26年	23	61	132	218	1,991	263,719
27年	24	63	91	146	2,137	195,361
28年	24	61	121	198	2,003	241,726
29年	23	59	133	244	1,824	242,001
30年	22	55	135	244	1,702	229,450
R元年	21	53	98	224	1,952	233,286
2年	20	49	98	201	2,102	205,365

資料：沖縄県糖業農産課



(8)かんしょ

石垣市では、平成19年に石垣市甘しょ産地協議会が発足し、石垣島甘しょ生産組合を中心に生産者の組織強化や品種の選定などが取り組まれ、「沖夢紫」の有望性が示された。平成23年に「沖夢紫」の普及拡大を目指し、菓子製造業者の呼び掛けで「第1回沖夢紫生産者親睦交流会」が開催され、生産気運が高まった。平成29年8月に新加工施設が整備され、平成29年3月には生産組合が石垣市甘しょ生産組合として再結成された。平成29年5月に石垣市は県奨励品種の紅イモ「沖夢紫」などのかんしょを対象品目とした拠点産地に認定された。平成31/R1年度は、栽培面積25ha(前年比143%)、収穫量259t(前年比130%)と上昇し、単収は1.0tとなり、産地協議会の目標単収1.2tに近づいた。石垣市甘しょ生産組合の会員数は令和1年5月時点で118人であったが、令和2年5月では171人と約1.4倍にまで増えた。



かんしょ「沖夢紫」の栽培状況と収穫イモの様子

石垣市かんしょ生産実績の推移

	H28	H29	H30	H31/R1
栽培面積(ha)	10	12	17.5	25
収穫量(t)	62	121	199	259
平均単収(t/10a)	0.6	1.0	1.1	1.0

資料:石垣市甘しょ生産組合提供

(9) ボタンボウフウ(長命草)

日本の最西端に位置する与那国島では、古くから祭事の供え物として用いられてきたボタンボウフウ(長命草)を平成16年から9戸の農家で経済栽培を開始し、平成18年3月には薬用作物部門で拠点産地認定を受けた。

平成20年に農業生産法人が設立された後、平成22年には与那国島長命草生産組合が結成されたことに加え、栽培から乾燥作業までの工程を島内で行う生産加工体制が整ったことにより、生産量も拠点産地認定後から約6倍(平成18年度生産量を基準)まで増加し、ボタンボウフウの一大産地となっている。



ボタンボウフウの栽培状況

与那国町ボタンボウフウ生産実績の推移

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
生産農家戸数(戸)	50	50	55	60	60	60	60	60	60	48
栽培面積(ha)	15	25	27	27	27	27	27	22	20	15
生薬生産量(t)	153	220	334	263	354	295	299	373	370	149

資料:与那国町役場産業振興課

3 畜 産

- (1) 当地域の畜産は、恵まれた亜熱帯気候と広大な草地面積の確保により、農業算出額の約60%を占める基幹産業として順調に発展している。
特に肉用牛は国内外からの旺盛な食肉需要を反映して産出額が好調に推移している。石垣牛は観光客への人気も高く、平成20年にはJAおきなわの「石垣牛」が、特許庁より地域団体商標(地域ブランド)を取得しており、令和元年度のJA石垣牛販売実績は818頭、約8億円であった。平成26年度からは新たに食肉センターが稼働しており、さらなる「石垣牛」ブランドの強化と販路拡大が期待されている。
- (2) 平成30年の沖縄県の農業産出額は988億円となっており、うち畜産部門は449億円で約45%を占めている。子牛価格が高値で推移したことにより、3年連続で肉用牛で200億円を突破した。畜産部門の構成比は、肉用牛50% (223億円)、豚30% (132億円)、その他畜産20% (91億円)となっている。そのうち、八重山家畜市場・黒島家畜市場における肉用牛の取引総額は約57億円を占めた。
- (3) 肉用牛の流通面においては、指定市場の八重山家畜市場(石垣市)と黒島家畜市場(竹富町黒島)の2市場で生体取引が行われ、取引される子牛は九州地方を中心に県外へと移出されている。令和元年度の取引実績は八重山家畜市場が8,145頭、黒島家畜市場が865頭であった。八重山地域で生産される牛は、粗飼料の利用性や発育性に優れ、今日の和牛に求められている高い産肉能力と良好な肉質を兼ね備えた肥育素牛として高く評価されている。
- (4) 当地域には多くの未利用地・低利用地があったことから、昭和51年から大型畜産基地建設事業が実施され大規模な草地基盤の整備が図られてきた。平成5年度から21年度まで畜産基盤再編総合整備事業(旧公社営畜産基地建設事業)を実施した。
また、平成25年度から28年度まで畜産担い手育成総合整備事業の「やいま地区(石垣市)」において新たに100頭規模の肥育牛舎等を整備した。さらに竹富町において、平成29年度から「サミン地区」、平成30年度から「美ら島地区」をいずれも4年計画で整備する。
- (5) 家畜防疫衛生については、管内では法定伝染病である牛バベシア病を媒介するオウシマダニが過去、広域に生息しており、肉用牛振興の大きな生産阻害要因となっていた。そのため昭和46年以降、国庫補助による沖縄牧野ダニ撲滅対策事業等の長期かつ大規模な防除対策が展開され、平成8年には悲願であったオウシマダニの完全撲滅が達成された。その成果として、肉用牛の飼養頭数は右肩上がりに増頭に転じ、県内一の肥育素牛供給産地となった。
また、管内は台湾など東南アジアの国境隣接地帯に位置するとともに、近年の台湾や韓国などからのクルーズ船やチャーター便の寄港に伴う外国人観光客が増加傾向にある。そのため、特定家畜伝染病の口蹄疫やCSF・ASF、高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入を警戒していたところ、令和2年1月、本島中部にて県内33年ぶりとなるCSFが発生した。続発により7例の発生と関連施設10農場で防疫措置が実施され、12,381頭が殺処分される事態となった。早期終息を図るため、当課(所)からも複数の職員を約3ヶ月間に渡り派遣を行った。引き続き初動対応も含めた危機管理体制を強化する。
- (6) 養豚農家の種豚改良を図るため、平成25年度より養豚経営安定対策事業の一環として、系統造成豚等利活用事業により石垣市に系統造成ランドレースのアイランド豚やデュロック等の優良種豚が本島より導入されてきたが、県内でのCSF発生に伴うワクチン接種によりワクチン未接種地域の離島においては、本島からの豚導入が不可能となり課題となっている。このようなか、令和2年7月にばいぬしま養豚振興協議会が発足し、当該事業をとおして養豚生産者の課題を把握し、経営安定と地元産豚肉消費拡大、伝染病防疫対策の連携強化等の活動により、今後の養豚業の振興を図っていく。
- (7) 令和元年度には八重山地区で8,013本の県種雄牛の人工授精用凍結精液が払い下げられ、多くの八重山地域の子牛の種牛として使用されている。今後も県種雄牛の凍結精液を使った優良な子牛、枝肉の生産が期待される。
- (8) 畜産分野の表彰事例として、令和2年10月に開催された第46回沖縄県畜産共進会枝肉部門では、石垣市のヤイマ・ブリーダー・ランチが出品した県有牛の「球美乃花」産子の枝肉が優秀賞1席を受賞し、枝肉単価過去最高の8,880円の値がついた。

今後期待される県種雄牛(畜産研究センター)



百合白清2後継牛
サシ・ロース芯・歩留基準値のゲノム育種価No. 1
気高系「美百合」



竹富産の北福波後継牛
高いゲノム育種価
糸桜系「北百合平」



石垣産の種雄牛
枝肉重量・サシ両方の改良に期待
気高系「豊百合勝」



北福波後継牛
高いゲノム育種価と現場検定成績
糸桜系「茂北福」



北福波後継牛
安定した子牛の発育と枝肉
糸桜系「球美乃花」



北福波後継牛
良好な枝肉成績
糸桜系「福福波」

令和元年末 主要家畜の飼養状況

単位:戸、頭、羽

地域別	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山羊		みつばち		
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数	
県計	2,307	73,783	64	4,242	276	218,081	301	1,386,547	21	601,522	129	597	1,401	11,703	755	16,517	
八重山計	28.8%	40.3%	9.4%	5.2%	5.1%	1.7%	12.0%	2.4%	9.5%	0.3%	40.3%	47.7%	14.0%	17.4%	3.0%	2.1%	
	665	29,765	6	221	14	3,771	36	33,650	2	2,000	52	285	196	2,037	23	347	
	石垣市	491	23,210	5	220	12	3,748	4	33,035	2	2,000	23	81	99	1,245	22	337
	竹富町	137	5,593	1	1	1	4	31	315	0	0	14	22	84	620	1	10
与那国町	37	962	0	0	1	19	1	300	0	0	15	182	13	172	0	0	
宮古	33.2%	18.8%	0.0%	0.0%	4.7%	0.3%	4.0%	2.5%	0.0%	0.0%	7.0%	8.7%	13.7%	11.7%	7.0%	3.2%	
	765	13,884	0	0	13	686	12	34,928	0	0	9	52	192	1,365	53	527	
本島	24.9%	21.1%	79.7%	79.9%	49.6%	53.1%	41.5%	56.0%	19.0%	0.8%	26.4%	25.3%	33.7%	35.6%	36.6%	37.5%	
	575	15,570	51	3,388	137	115,851	125	776,956	4	4,725	34	151	472	4,163	276	6,194	
	13.1%	19.7%	10.9%	14.9%	40.6%	44.8%	42.5%	39.0%	71.4%	98.9%	26.4%	18.3%	38.6%	35.4%	53.4%	57.2%	
	302	14,564	7	633	112	97,773	128	541,013	15	594,797	34	109	541	4,138	403	9,449	

資料:八重山家畜保健衛生所

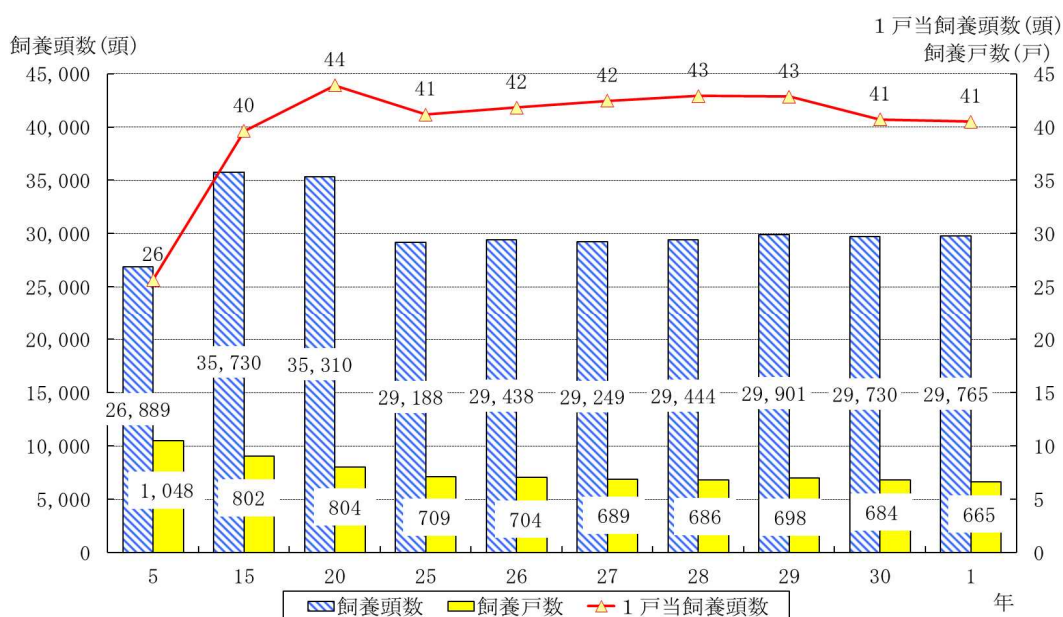
八重山における主要家畜の飼養頭羽数の推移

単位:戸、頭、羽

年度	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山羊		みつばち	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数
平成10年度	961	36,140	4	376	18	6,395	45	59,128	-	-	74	391	162	1,177	-	-
平成20年度	804	35,310	7	218	12	3,532	48	55,089	1	800	54	353	118	822	4	35
平成28年度	686	29,444	7	216	15	5,274	54	48,132	3	1,375	88	427	205	1,557	17	277
平成29年度	698	29,901	7	222	16	5,876	52	43,586	3	2,225	80	450	207	1,831	29	394
平成30年度	684	29,730	7	230	16	5,197	43	41,645	3	2,215	52	287	220	1,920	32	371
令和元年度	665	29,765	6	221	14	3,771	36	33,650	2	2,000	52	285	196	2,037	23	347

資料:八重山家畜保健衛生所

八重山における肉用牛飼養頭数の推移



肉用牛飼養規模別農家数(令和元年末)

区分 市町名	1頭		2～9頭		10～19頭		20～29頭		30～39頭	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	1	1	92	558	108	1,561	86	2,084	58	2,016
竹富町	1	1	21	117	21	310	31	784	18	620
与那国町			14	76	10	127	6	153	1	35
合計	2	2	127	751	139	2,450	123	3,021	77	2,671

区分 市町名	40～49頭		50～99頭		100頭以上		計	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	24	1,060	79	5,726	43	10,146	491	23,152
竹富町	12	530	22	1,479	11	1,752	137	5,593
与那国町	3	133	2	114	1	324	37	962
合計	39	1,723	103	7,319	55	12,222	665	29,707

資料:八重山家畜保健衛生所(肥育用乳用種以外)

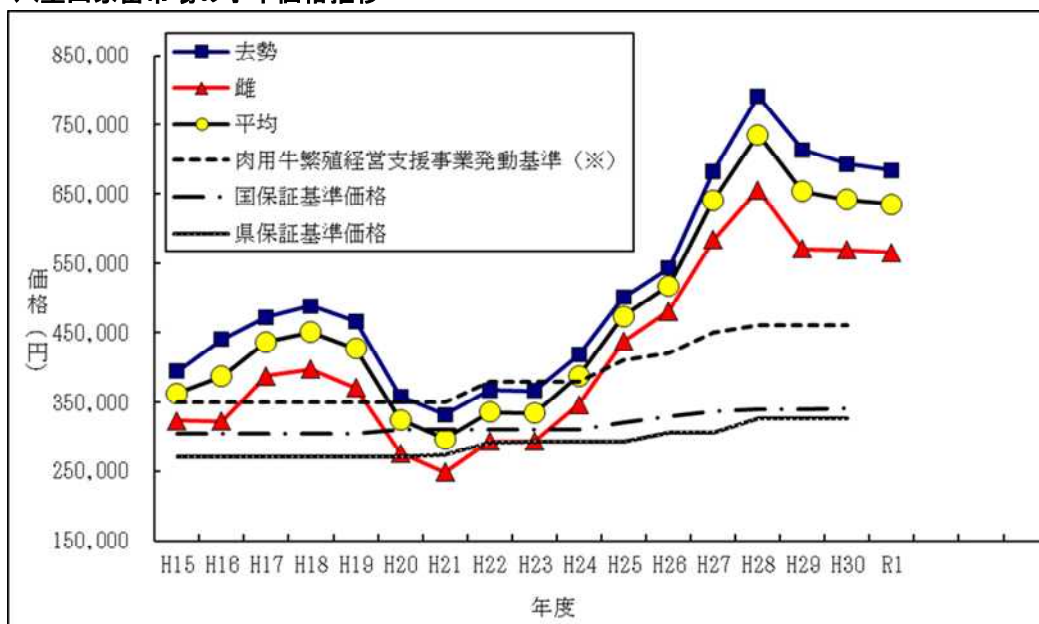
子牛のセリ市場実績(八重山、黒島合計)

年	開場回数	上場頭数	成立頭数		売上金額(千円)	1頭当平均体重(kg)	1頭当平均価格(千円)	生体1kg当単価(円)
			去勢	雌				
平成15年	18	10,560	5,792	4,768	4,085,999	263	387	1,457
平成20年	18	9,604	5,612	3,992	3,081,391	260	321	1,207
平成25年	18	8,979	5,157	3,822	4,251,778	254	474	1,864
平成26年	18	8,750	5,082	3,668	4,525,622	255	517	2,028
平成27年	18	8,862	5,100	3,762	5,410,058	260	610	2,452
平成28年	18	8,848	5,208	3,640	6,509,982	264	736	2,794
平成29年	18	8,990	5,261	3,729	5,866,229	267	653	2,444
平成30年	18	8,848	5,167	3,681	5,677,524	269	642	2,381
令和元年	18	9,089	5,262	3,748	5,718,732	269	629	2,355

※平成10～23までは年次、24年以降は年度集計

資料:八重山家畜保健衛生所

八重山家畜市場の子牛価格推移



資料:八重山家畜保健衛生所

※1 平成21年度までは子牛生産拡大奨励事業
 ※ 平成23年以前は年次、24年以降は年度値
 平成30年12月事業終了

4 農業・畜産生産振興事業

(1) 経営構造対策（特定地域経営支援対策事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	受益地区	総事業費
30	石垣市	沖縄県農業協同組合	果樹温室 10,560㎡	石垣第6地区	101,109
		沖縄県農業協同組合	果樹温室 5,796㎡	石垣第6地区	53,028
31	石垣市	沖縄県農業協同組合	果樹温室 9,870㎡	石垣第7地区	156,567
		沖縄県農業協同組合	野菜温室 4,104㎡	石垣第7地区	42,218
R2	石垣市	沖縄県農業協同組合	果樹温室 6,432㎡	石垣第8地区	100,427
R2	石垣市	沖縄県農業協同組合	さとうきび収穫機械一式	大浜第二地区	55,165

(2) 野菜振興対策

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	対象作物	総事業費
------	----------	------	------	------	------

ア. 沖縄県農業生産・経営対策事業

26	竹富町	竹富町	実証試験（機械）等	かぼちゃ	607
29	竹富町	竹富町	栽培講習会、 現地検討会（島内圃場）	ばれいしょ	275
				かぼちゃ	223
30	竹富町	竹富町	栽培講習会、 現地検討会（島内圃場）	かぼちゃ	338
				ばれいしょ	275
R1	竹富町	竹富町	栽培講習会、 現地検討会（島内圃場）	かぼちゃ	546
				ばれいしょ	113

イ. 災害に強い栽培施設の設備事業

25	石垣市 （石垣地区）	沖縄県農業協同組合	強化パイプハウス	ゴーヤー	38,325
				ゴーヤー	18,165

ウ. 沖縄県園芸作物生産振興対策事業

27	竹富町	竹富町馬鈴薯生産組合	ばれいしょ選別機	ばれいしょ	1,422
30	竹富町	沖縄県農業協同組合	かぼちゃ選別機	かぼちゃ	3,246

(3) 果樹振興対策（沖縄県農業生産・経営対策事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	対象作物	総事業費
27	石垣市（名蔵地区）	石垣市	種苗圃設置委託等	パインアップル	176
	竹富町（西表地区）	竹富町	技術の普及（栽培技術講習会）等	パインアップル	340

(4) 花き振興対策（自然災害に強い設備事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	対象作物	総事業費
25	石垣市	赤石花卉生産組合	施設補強	レッドジンジャー	8,537

(5) 糖業対策（沖縄県さとうきび安定生産確立対策事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	受益地区	総事業費
28	石垣市	沖縄県農業協同組合	中型ハーベスター、収納袋	名蔵蒲田原東地区	57,925
			中型ハーベスター、収納袋	宮良牧中中南部地区	39,509
		(一財)石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	北西部地区	58,197
			トラクター、プラウ、ロータリー	新川地区	18,858
	与那国町	沖縄県農業協同組合	小型ハーベスター、収納袋	立田神・桃原地区	36,968
29	石垣市	(一財)石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	石垣地区	59,648
	竹富町	沖縄県農業協同組合	小型ハーベスター、収納袋	波照間地区	59,285
			小型ハーベスター、収納袋	小浜地区	39,780
30	石垣市	(一財)石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	大川地区	59,467
		沖縄県農業協同組合	大型株出管理機（4台）	宮良・白保・川平・平久保地区	12,518
	竹富町	沖縄県農業協同組合	中型ハーベスター、収納袋	西表大富・古見地区	59,467
R1	石垣市	(一財)石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	登野城(1)地区	60,283
			中型ハーベスター、収納袋	平得地区	60,283
			中型ハーベスター、収納袋	伊野田(2)地区	60,283
			トラクター、リバースプラウ、ロータリー、ブームプレー	石垣地区	19,241

(6) 八重山地域畜産基地建設実施状況

	区域名	工事期間 所在地	主要事業	事業費 (百万円)	類型別経営体数	家畜飼養頭数(目標)
1	公団営 石垣第一	昭和51～昭和54 石垣市	草地造成 291 ha 畜舎 33 棟 農機具導入 175 台 家畜導入 492 頭	3,270	肉用牛公共牧場 1 肉用牛牧場 10 肉用牛牧場、養豚場 2 養豚場 1 計 14	肉用牛 3,024 頭 豚 1,676 頭
2	公団営 石垣第二	昭和55～昭和58 石垣市	草地造成 290 ha 畜舎 52 棟 農機具導入 320 台 家畜導入 610 頭	7,425	肉用牛牧場 12 肥育センター 1 肉用牛繁殖、養豚場 2 養豚場 4 養鶏場 2 酪農場 1 食肉センター 1 計 23	肉用牛 3,296 頭 乳用牛 318 頭 豚 6,249 頭 採卵鶏 47,828 羽
3	公団営 八重山第一	昭和59～昭和62 石垣市・竹富町	草地造成 250 ha 畜舎 19 棟 農機具導入 182 台 家畜導入 210 頭	4,539	肉用牛牧場 12 養豚場 5 養鶏場 1 食肉センター 1 計 19	肉用牛 2,031 頭 豚 1,874 頭 採卵鶏 20,210 羽
4	公団営 与那国	昭和61～平成3 与那国町	草地造成 193 ha 畜舎 28 棟 農機具導入 209 台 家畜導入 18 頭	3,746	肉用牛牧場 33 養豚場 1 家畜市場 1 計 35	肉用牛 2,453 頭 豚 419 頭 馬 33 頭
5	公団営 八重山第二	昭和63～平成4 石垣市・竹富町	草地造成 238 ha 畜舎 4 棟 農機具導入 118 台	3,190	肉用牛牧場 23 養豚 1 家畜市場 2 計 26	肉用牛 2,945 頭 豚 690 頭
6	公社営 竹富町第一	平成5～平成9 竹富町 (黒島)	草地造成 111 ha 畜舎 17 棟 農機具導入 41 台	1,392	肉用牛牧場 18 計 18	肉用牛 617 頭
7	公社営 ばいぬしま	平成10～12年 竹富町 (竹富島・西表島 小浜島・波照間島)	草地造成 54 ha 畜舎 19 棟 農機具導入 85 台	1,456	肉用牛牧場 21 家畜市場 1 計 22	肉用牛 1,571 頭
8	公社営 竹富町第二	平成10～13年 竹富町 (黒島)	草地造成 118 ha 畜舎 19 棟 農機具導入 51 台	1,550	肉用牛牧場 22 計 22	肉用牛 2,474 頭
9	公社営 ばいぬしま 第二	平成15～18年 竹富町 (黒島・西表島 小浜島・波照間島)	草地造成 92 ha 畜舎 12 棟 農機具導入 79 台	1,750	肉用牛牧場 27 家畜市場 1 計 28	肉用牛 2,450 頭
10	公社営 ばいぬしま 第三	平成19～21年 竹富町 (黒島・西表島 小浜島・波照間島)	草地造成 80.2 ha 畜舎 12 棟	1,017	肉用牛牧場 21 計 21	肉用牛 1,948 頭
11	公社営 やいま地区	平成25～28年 石垣市	草地造成 46.7 ha 草地整備 16.8 ha 畜舎 2 棟 農機具導入 12 台	630	肉用牛牧場 12 肥育センター 1 計 13	肉用牛 1,626 頭
	計	昭和51～平成28	草地造成 1,764 ha 草地整備 17 ha 畜舎 217 台 農機具導入 1,272 台 家畜導入 1,330 頭	29,965	肉用牛牧場 211 肉用牛牧場、養豚場 4 養豚 12 その他 14 計 241	肉用牛 24,435 頭 乳用牛 318 頭 豚 10,908 頭 鶏 68,038 羽 馬 33 頭

資料:八重山家畜保健衛生所

注1:6以降は畜産基盤再編総合整備事業、10から畜産担い手育成総合整備事業(旧畜産基盤再編総合整備事業)

5 家畜伝染病予防・病害虫防除・鳥獣被害防止対策事業

(1) 家畜衛生関係の事業概要(平成31年4月～令和2年3月)

1. 予防注射事業 家畜伝染病予防法第6条の規定に基づき実施する。

(牛)	牛流行熱	牛異常産三種混合	アカバネ病
実施頭羽数	1532	1127	141
(鶏)	ニューカッスル病		
実施頭羽数			

2. 家畜伝染病及び届出伝染性疾病発生状況

家畜伝染病発生報告

家畜種類	病名	発生戸数	発生頭数	死亡頭数	殺頭数

届出伝染性疾病発生報告

病名	家畜種類	発生戸数	発生頭数	死亡頭数	疑症
牛伝染性リンパ腫	牛	48	58	58	0
牛流行熱	牛	4	7	1	0
破傷風	牛	5	5	5	0
サルモネラ症	牛	1	3	1	0
豚繁殖・呼吸器障害症候群	豚	1	3	3	0

その他検査実績

	BSE検査	種畜衛生検査	導入牛検査	豚熱	オーエスキー病	アルポウイルス調査
頭数	143	15	167	76	36	165

3. 口蹄疫等侵入防止対策

八重山地域は、口蹄疫やアフリカ豚熱などの家畜伝染病汚染国である台湾や中国に隣接しているとともに、台湾・韓国からのクルーズ船や定期便、チャーター便の就航など国際的な人や物の往来の増加に伴い、家畜伝染病の侵入リスクが高いことが懸念されている。このような中、平成25年3月には新石垣空港、同年4月には石垣港が指定港化され、動物検疫所が携行品検査等を実施するなどの水際防疫が強化されている。管内における平成30年の年間入域観光客数は約140万人であり、うち竹富町の離島へは約105万人が訪れる観光地となっていることから、離島棧橋や各離島(竹富島、黒島、小浜島、西表島)では靴底用消毒マットが設置されている。さらに、各離島における初動防疫強化のため、防疫資材用備蓄コンテナを整備している。また、家畜伝染病が万が一発生した場合に備えて、平成23年度から毎年防疫演習を開催しており、初動防疫体制の強化に努めている。



【口蹄疫とは】

ピコルナウイルス科アフトウイルス属に分類される口蹄疫ウイルスの感染による急性熱性伝染病で、伝染力が強く、牛、水牛、豚、めん羊、山羊などの家畜をはじめ、野生動物を含むほとんどの偶蹄類動物が感染する。主症状は39 以上の発熱、多量の泡沫性流涎(よだれ)がみられ、口、蹄、乳頭等に水泡やびらん・潰瘍が形成される。(下記写真参照)

牛の症状



口腔のただれ、多量のよだれ

舌の水疱

豚の症状



鼻鏡の水疱

足の皮膚のびらん

【ASF(アフリカ豚熱)とは】

アスファウイルス科に分類されるアフリカ豚熱ウイルスによる急性から慢性の熱性伝染病で、豚やイノシシ等、イノシシ科動物に感染する。2018年8月以降、中国各地で発生している。典型的な臨床症状はなく、発熱、食欲不振等の一般的な症状で始まり、結膜炎、呼吸障害、便秘に次ぐ下痢、四肢痙縮等神経症状が現れる。致死率はウイルスの病原性により0～100%まで様々である。(写真参照)

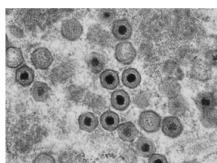


写真1. 細胞内のアフリカ豚コレラウイルス粒子正六角形の断面が見られる(電子顕微鏡写真)。

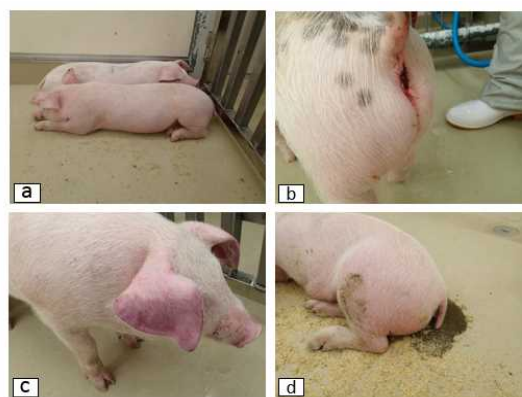


写真2. アフリカ豚コレラウイルスに感染した豚
a: 発熱、元気消失、食欲不振を示して壁際に寄り添うようにうずくまる。
b: 直腸体温測定後の肛門からの鮮血。
c: 耳翼の紅斑。
d: 下痢。

【CSF(豚熱)とは】

フラビウイルス科に分類される豚熱ウイルスによる熱性伝染病で豚とイノシシに感染する。我が国において平成30年9月に、26年ぶりとなるCSFの発生が確認された。その後、令和3年3月1日時点で沖縄県を含む11県で62例の発生が確認されている。ASFと同様に典型的な臨床症状はなく、全身性、敗血症性伝染病であり、高い死亡率と強い伝染力を有する。

(写真参照)



【令和元年度特定家畜伝染病防疫演習の様子】

管内は、多くの離島を抱えていることから、地域の実情を鑑みた防疫演習を平成23年度から継続的に実施している。今年度は2部構成とし、第1部は「異常家畜の発見・通報から病性決定及び終息宣言までの防疫措置」をテーマに講義を実施。第2部は「埋却地での準備・掘削・埋却作業」を八重山農林水産振興センター整備課及び建設業協会と連携した実働演習を実施した。疾病について、発生時の対応・防疫作業の流れ等について参加者に説明し情報の共有を図った。

第一部



第二部



(2) 特殊病害虫特別防除事業

ミバエ根絶事業

【ウリミバエ】

ウリミバエは大正8年(1919)に八重山群島で発見されて以来、分布域を拡大し(第1表)農作物に大きな被害を与え、農業振興上の障害となり、その根絶が県民の長年にわたる夢であった。

県におけるウリミバエの根絶防除は昭和47年(1972)本土復帰を契機にはじまり、久米島、宮古群島、沖縄群島での根絶達成後、八重山群島では、昭和56年から薬剤による被害軽減防除を実施し、平成元年(1989)9月八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センターを建設、同年10月からテックス板による密度抑圧防除に着手した。平成2年(1990)1月から不妊虫放飼防除を開始し、9,000万頭/週(石垣市4,000万、竹富町4,400万、与那国町600万)を航空(ヘリ)放飼した。平成5年(1993)5月から8月まで確認調査を実施し、その結果公聴会(同年10月8日)等の手続きを経て植防法施行規則が改正(10月29日付、同30日施行)され、八重山群島はウリミバエの発生地域から除外された。このことは、大正8年(1919)ウリミバエの発見以来実に74年ぶりのことである。

表 ウリミバエの分布拡大と根絶

	侵入(分布)	防除開始	根絶
八重山群島	大正8年(1919)	平成2年1月(1990)	平成5年10月(1993)
宮古群島	昭和4年(1929)	昭和59年8月(1984)	昭和62年11月(1987)
久米島	昭和45年(1970)	昭和50年2月(1975)	昭和53年9月(1978)
沖縄群島	昭和47年(1972)	昭和61年11月(1986)	平成2年11月(1990)
奄美群島	昭和49年(1974)	昭和60年9月(1985)	昭和62年11月(1987)

【ミカンコミバエ】

ミカンコミバエは、ウリミバエと同様に大正8年(1919)に発生が確認された後、本土復帰を契機に根絶防除が開始された。根絶防除は誘殺剤を吸着させた誘殺板を用い、ヘリから投下する航空防除、住宅地等では誘殺板を吊り下げる地上防除が行われ、昭和61年(1986)八重山群島の根絶を最後に沖縄県全域から一掃された。

ウリミバエ・ミカンコミバエ侵入防止事業

ウリミバエ・ミカンコミバエ根絶後、再侵入を防止するため侵入防止事業を実施している。



ウリミバエ



ミカンコミバエ

ア 八重山群島におけるウリミバエの侵入防止

	八重山群島(石垣市・竹富町)	八重山群島(与那国町)
不妊虫生産	放飼計画に従い、大量増殖施設でウリミバエの蛹を生産し、不妊化施設でコバルト60からでる放射線(γ線)を照射して不妊化する。なお、生産毎にふ化率、蛹歩留まり、羽化率、有効飛び出し虫率を調査する。	
蛍光色素	黄色:サタンイエロー	白色:インビジブルブルー
飼育保管	八重山放飼センター:コンテナ	—
蛹輸送方法	不妊化当日空輸(蛹)	不妊化当日空輸(蛹)
放飼方法	成虫冷却航空放飼 放飼当日低温(2~5°C)	蛹地上放飼(放飼容器:100カ所)
放飼不妊虫数	3,600万頭/回	300万頭/回
防除回数	36回	35回
防除面積	38,795ha	2,888ha
防除時期	4月・10月~3月(隔週放飼) 5月~9月(毎週放飼)	4月・10月~3月(隔週放飼) 5月~9月(毎週放飼)

イ 八重山群島におけるミカンコミバエの侵入防止

	防除地域	実防除面積 (ha)	防除 回数	延防除面積 (ha)	1ha当 薬剤量	総薬剤量(枚)
地上防除	八重山群島	2,174	6	8,496	3枚	25,488
航空防除	石垣市	20,419	4	40,838	2枚	81,676
	西表外周	12,994	4	25,988	2枚	51,976
	与那国島	5,273	4	10,546	2枚	21,092

ウ ウリミバエ・ミカンコミバエ侵入警戒調査

侵入防止事業の効果を確認するためトラップ調査と寄主植物調査を実施している。トラップは八重山群島で104個設置し、年26回、定期寄主植物調査は年2回実施している(令和元年度)。

(3) 特定重要病害虫防除対策事業

カンキツグリーニング病防除対策

カンキツグリーニング病は、昭和63年(1988)西表島において発見され、その後平成5年(1993)沖縄本島で発生が確認された。平成9年(1997)の植物防疫法改正により、沖縄県からの果実を除く寄主植物及び媒介昆虫であるミカンキジラミの本土への移動が規制されている。

県における防除対策は、カンキツ園、庭木のカンキツ類を対象に現地調査とサンプル収集及び検定を実施し、発生状況の調査を行っている。

またチラシ・リーフレットによる啓発活動、罹病樹の所有者の了解を得ての伐採処分の実施及び伐採指導等の総合的な対策を実施している。

八重山地区では、平成23年度からは一斉調査は行わず、持ち込み診断の呼びかけを行い、カンキツグリーニング病の認知度アップや伐採率向上を目指している。

カンキツグリーニング病罹病樹伐採状況

単位:本

項目 地域別	令和元年度持込診断・重点調査			累計(H24～令和元年度)		
	サンプリング数	罹病樹	伐採樹	罹病樹	伐採樹	未伐採樹
八重山計	0	0	0	3	0	0
石垣市	0	0	0	0	0	0
竹富町	0	0	0	0	0	0
与那国町	0	0	0	0	0	0

※沖縄県病害虫防除技術センター調べ

八重山地域のナスミバエ発生状況

昭和59年6月、与那国島において、我が国で初めてナスミバエの寄生果実が発見された。平成16年度からナスミバエまん延防止防除事業により平成23年8月に根絶したところであるが、平成30年7月に発生が確認されている。

平成22年12月沖縄本島で発生が初確認されて以降、平成25年度から発生地域が拡大傾向となり、令和元年度、石垣市、竹富町においても発生が確認されている。

ナスミバエは、植物防疫法による移動規制対象害虫のミカンコミバエと異なり、急激にまん延して大きな農業被害をもたらすものではなく、通常防除が行われていればほとんど被害がないと判断されています。



ナスミバエ

(4) 鳥獣被害防止対策事業

八重山地区における、令和元年度の鳥獣被害額は約722万円となっている。各地域では地域協議会や鳥獣被害対策実施隊を設置し、鳥獣被害防止総合対策事業等により被害軽減に努めている。

令和元年度八重山地区における鳥獣種類別被害面積・金額

	鳥獣種類名	主な被害作物種類名	被害面積 (a)	被害額 (円)
石垣市	カラス	パインアップル、ニンジン	21.3	208,900
	イノシシ	サトウキビ、パインアップル、カボチャ、甘しょ、ハーブ	194.58	2,590,619
	キジ	水稲、パインアップル、カボチャ、甘しょ、さとうきび	28.35	281,894
	その他鳥類 (クジャク、カモ類)	水稲、カボチャ	15.01	216,198
	石垣市計			259.24
竹富町	カラス	パインアップル、牛	60	801,480
	イノシシ	パインアップル、サトウキビ、水稲、カボチャ、甘しょ	761	2,976,600
	その他鳥類 (クジャク・カルガモ)	水稲、家畜飼料	40	147,000
	竹富町計			861
八重山地区 計			1120.24	7,222,691

令和元年度鳥獣被害防止総合対策事業(国庫補助)実績

市町	事業実施主体	事業内容	総事業費(円)
石垣市	石垣市有害鳥獣対策協議会	推進事業: 捕獲活動費	2,686,100
		整備事業: 電気柵設置	
		事業費計	2,686,100
竹富町	竹富町有害鳥獣対策協議会	推進事業: 捕獲活動費	827,420
		整備事業: 電気柵設置	
		事業費計	827,420

狩猟者登録証交付状況

	種 別				交付件数(計)
	網猟	わな猟	第1種銃猟	第2種銃猟	
平成27年度	0	149	74	6	229
平成28年度	0	162	72	9	243
平成29年度	0	167	70	10	247
平成30年度	0	169	70	9	248
令和元年度	0	165	66	10	241

有害鳥獣捕獲(駆除)許可状況

	捕獲許可件数
平成27年度	73
平成28年度	73
平成29年度	82
平成30年度	140
令和元年度	142

狩猟及び有害鳥獣捕獲(駆除)による捕獲数量

	イノシシ	カモ類	パン	キジバト	カラス類	スズメ	クジャク	その他	捕獲数計
平成27年度	1,119	282	20	133	913	1	260	583	5,225
平成28年度	1,306	201	21	143	1,231	0	588	1,238	4,728
平成29年度	1,465	323	30	51	1,306	0	545	784	4,504
平成30年度	1,540	174	3	15	2,231	0	1,310	1,989	7,262
令和元年度	1,485	185	0	21	1,909	0	1,013	1,333	5,946

注: 「その他」にハト、キジ等

6 農業農村整備の概要

(1) 八重山における農業農村整備状況

平成元年度末の沖縄県における農業生産基盤の整備状況は、水源・かんがい施設の要整備面積38,600haに対して、整備率は水源が62.5%、かんがい施設の整備率は49.1%となっている。また、ほ場要整備面積32,800haに対して、62.8%の整備率、勾配修正等による赤土等流出防止施設の要整備面積は17,600haに対して35.5%の整備率となっている。

これに対して八重山における農業生産基盤の整備状況は、水源・かんがい施設の要整備面積7,986haに対して、その整備率は水源が62.7%、かんがい施設の整備率は54.5%となっている。また、ほ場は要整備面積4,918haに対して、71.5%の整備率、赤土等流出防止施設は要整備面積4,402haに対してその整備率は68.4%となっている。八重山圏域は県内他地域と比べ整備率が高く、農業振興に大きく貢献している。引き続き、未整備地域を整備促進していくこととしている。

【語句の説明】

『農業用水源整備』：ダムや貯水池など農業用水の水源を整備すること。

『かんがい施設整備』：スプリンクラー・給水栓などの散水施設を整備すること。

『ほ場整備』：畑や水田を整備すること。

『集落排水施設整備』：農村集落内の生活排水処理（下水処理施設）等を整備すること。

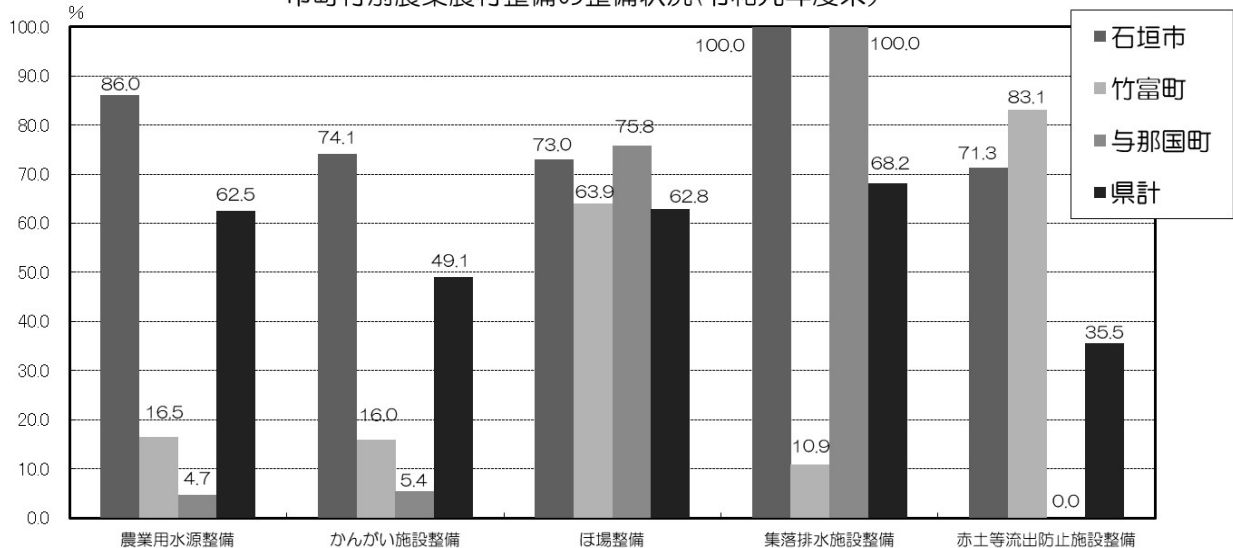
『赤土等流出防止施設整備』：グリーンベルト設置やほ場の勾配修正等を行うことで、土地の土壌流出を防ぐこと。

年度	農業用水源整備(ha)			かんがい施設整備(ha)			ほ場整備(ha)			集落排水施設整備(人)			赤土等流出防止施設整備(ha)			
	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率	
22	8,152	4,925.5	60.4	8,152	4,141.9	50.8	5,037	3,394.6	67.4	33	7.0	21.2	4,402	2,633.9	59.8	
23	8,137	4,925.5	60.5	8,137	4,190.9	51.5	5,098	3,404.1	66.8	13,070	9,061.0	69.3	4,402	2,722.4	61.8	
24	8,137	4,959.3	60.9	8,137	4,244.8	52.2	5,098	3,411.6	66.9	13,070	9,061.0	69.3	4,402	2,884.3	65.5	
25	8,137	5,003.3	61.5	8,137	4,255.8	52.3	5,098	3,425.0	67.2	13,070	9,061.0	69.3	4,402	3,009.1	68.4	
26	8,137	5,003.3	61.5	8,137	4,278.3	52.6	5,098	3,435.4	67.4	13,070	9,061.0	69.3	4,402	3,009.1	68.4	
27	7,986	5,003.3	62.7	7,986	4,285.4	53.7	4,918	3,453.7	70.2	13,070	9,061.0	69.3	4,402	3,009.1	68.4	
28	7,986	5,003.3	62.7	7,986	4,307.3	53.9	4,918	3,470.1	70.6	11,711	8,807.0	75.2	4,402	3,009.1	68.4	
29	7,986	5,003.3	62.7	7,986	4,317.9	54.1	4,918	3,494.4	71.1	11,711	8,807.0	75.2	4,402	3,009.1	68.4	
30	7,986	5,003.3	62.7	7,986	4,338.4	54.3	4,918	3,504.2	71.3	11,711	8,807.0	75.2	4,402	3,009.1	68.4	
令和元年度	石垣市	5,390	4,637.8	86.0	5,390	3,994.3	74.1	3,582	2,614.9	73.0	7,089	7,403.0	100.0	3,549	2,528.8	71.3
	竹富町	2,060	340.1	16.5	2,060	329.1	16.0	943	603.0	63.9	3,714	406.0	10.9	578.0	480.3	83.1
	与那国町	536	25.4	4.7	536	28.8	5.4	392	297.3	75.8	908	998.0	100.0	275	0.0	0.0
	圏域計	7,986	5,003.3	62.7	7,986	4,352.2	54.5	4,918	3,515.2	71.5	11,711	8,807.0	75.2	4,402	3,009.1	68.4
	県計	38,600	24,133.4	62.5	38,600	18,942.0	49.1	32,800	20,614.5	62.8	100,320	68,395.0	68.2	17,600	6,248.5	35.5

※農業集落排水施設整備について、「ちゅら水プラン2016」に合わせ、平成28年度実績見込みより要整備量等を見直した。

※農業集落排水施設の要整備量は人口推移を勘案したR17推計処理人口であり、整備済処理人口を超えた市町村は100%で表示している。

市町村別農業農村整備の整備状況(令和元年度末)



(2) 農業生産基盤の整備

亜熱帯特性等生かした特色ある農林水産業の振興を図るため、地域特性に適合した生産基盤を推進する。



スプリンクラー



浸透池



区画整理

番号	地区名	市町村	事業主体	受益面積 (ha)	全体		工期
					事業量	事業費 (千円)	
水利施設整備事業【農業用水を確保し活用するとともに、排水不良農地を解消する】							
1	上原1期	竹富町	県	134.1	溪流取水工 2ヶ所、貯水池工 2基、管路工 L=11,525m、小水力発電施設 1基、畑地かんがい施設、型給水所 1基	3,003,508	H26-R5
2	大座	石垣市	県	52.0	畑地かんがい A=52.0ha	511,500	H26-R5
3	大浜	石垣市	県	150.6	畑地かんがい A=150.6ha	1,737,000	H28-R5
4	大里・星野	石垣市	県	81.5	畑地かんがい A=81.5ha	1,208,000	H28-R4
	小計	4地区		-		6,460,008	
基幹水利施設管理事業(県営)【基幹的で大規模の農業用水利施設の適正な管理を行う】							
5	底原	石垣市	県	-	底原ダム管理 一式	-	H9~
6	川良原	石垣市	県	-	平喜名堰管理 一式	-	H9~
7	名蔵	石垣市	県	-	名蔵ダム管理 一式	-	H11~
	小計	3地区		-		-	
基幹水利施設管理事業(団体営)【基幹的で小規模の農業用水利施設の適正な管理を行う】							
8	平喜名	石垣市	市	-	平喜名揚水機場管理 一式	-	H9~
	小計	1地区		-		-	
農地整備事業(畑地帯担い手育成型・畑地帯担い手支援型)【複数の土地改良事業を、総合的・一体的に実施する】							
9	南帆安	与那国町	県	52.6	区画整理 A=52.6ha	2,767,500	H23-R2
10	大座	石垣市	県	52.1	区画整理 A=52.1ha	1,922,000	H24-R3
11	島仲	与那国町	県	49.8	区画整理 A=49.8ha	1,738,100	H26-R5
12	伊野田北	石垣市	県	20.2	区画整理 A=20.2ha	1,508,000	R2-R8
	小計	3地区		-		7,935,600	
農地整備事業(経営体育成型)【農地の区画を整理するとともに、耕作放棄地を解消する】							
13	米節東	石垣市	県	22.4	区画整理 A=22.4ha、畑地かんがい A=22.4ha	1,020,235	H20-R4
14	与那良原	竹富町	県	20.7	区画整理 A=20.7ha	899,500	H25-R3
	小計	2地区		-		1,919,735	
団体営農業基盤整備促進事業【農地・農業水利施設等の整備を実施し、生産効果の向上を図り、農業競争力の強化を図る】							
15	石垣第5	石垣市	区	28.2	農業用排水 L=269.5m、暗渠排水 A=5.75ha、土層改良 A=19.39ha	187,737	H29-R3
16	伊野田南	石垣市	市	28.4	農業用排水施設28.4ha、区画整理 A=10.4ha	630,600	H29-R3
17	大野	石垣市	市	14.8	農業用排水施設14.8ha、区画整理 A=14.8ha	887,000	R1-R5
18	栄第2	石垣市	市	11.5	農業用排水施設11.5ha、区画整理 A=10.8ha	903,288	R2-R6
19	嘉手苅第2	石垣市	市	7.5	農業用排水施設7.5ha	135,000	R2-R6
	小計	5地区		-		2,743,625	
国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)【農業水利施設の多面的機能を発揮させ、管理体制の整備を図る】							
20	石垣島	石垣市	県・市	4,220.0	-	1,346,976	H30-R4
	小計	1地区		-		1,346,976	
農村地域防災減災事業【農村地域の防災力の向上を図るための総合的な防災・減災対策を実施する】							
21	石垣島	石垣市	市	-	ガードパイプ等 L=1,300m	85,150	R1-R2
	小計	1地区		-		85,150	

団体営水利施設等保全高度化事業【農業水利施設等の整備により、生産効率の向上及び農業競争力の強化を図る】							
22	崎枝第2	石垣市	市	12.3	農業用排水施設 A=12.3ha	209,000	H30-R4
	小計	1地区		-		209,000	
県営通作条件整備事業(保全対策型)【通作や農産物の安定的搬出に機能保全を図る】							
23	石垣2期	石垣市	県	396.8	農道工改修 L=6.00km、附帯工一式	367,115	R1-R3
	小計	1地区		-		367,115	
	計	20地区		-	県営15地区18,029,434千円、団体営8地区3,037,775千円	21,067,209	

(3) 農地及び農業用施設の保全

農作物や農業用施設を台風などの災害から未然に防止する防風林帯等の保全整備を推進する。



沈砂池



水兼農道



防風林

番号	地区名	市町村	事業主体	受益面積 (ha)	全体		工期
					事業量	事業費 (千円)	
県営農地保全整備事業(防風施設)【暴風から農地侵食を防ぐ】							
1	みやらがわ第5	石垣市	県	97.5	防風施設 L=3,362m	209,200	H25-R4
2	みやらがわ第6	石垣市	県	86.3	防風施設 L=4,369m	519,200	H26-R5
	小計	2地区		-		728,400	
県営農地保全整備事業(農地浸食防止)【農用地の浸食崩壊を防ぐ】							
3	川原	石垣市	県	62.9	農地保全 A=62.9ha、農業用排水施設、A=62.9ha	1,441,400	H27-R6
4	大里	石垣市	県	41.5	農地保全(農道・排水路等) A=41.5ha	408,400	H28-R4
5	星野	石垣市	県	42.0	農地保全(農道・排水路等) A=35.6ha、ほ場整備(勾配修正等) A=42.0ha	913,100	H28-R4
	小計	3地区		-		2,762,900	
農地耕作条件改善事業【農用地の耕作条件を改善する】							
6	平田原	石垣市	区	22.5	農業用排水施設(給水柱)	111,200	R1-R3
7	野呂水	石垣市	市	7.3	営農環境整備支援 2.5ha、農作業道 1335m	105,700	R1-R3
8	シーラ	石垣市	市	20.3	営農環境整備支援 1.4ha、農作業道 2340m、管理省力化支援 265m	146,900	R1-R3
	小計	3地区		-		363,800	
農業水路等長寿命化・防災減災事業【機能保全計画に基づき適切な補修・更新等を行い、かんがい用水の安定的な供給を図る】							
9	石垣島第2	石垣市	区	1,560.0	畑地かんがい施設更新一式	315,000	H30-R2
10	石垣島第3	石垣市	区	3,627.0	揚水機場関連施設分解整備及び更新一式、配水池付帯設備更新一式、沈砂池及び浸透池転落防止施設更新一式	330,000	H30-R2
11	石垣島第4	石垣市	市	868.0	維持管理施設 L=2,350m(排水路防草対策)	90,000	H30-R2
12	石垣島第5	石垣市	市	775.0	農業用排水施設 L=5,330m	109,000	H30-R2
13	立田神	与那国町	町	25.5	貯水池改修一式	507,000	R1-R3
14	いしがきじま	石垣市	区	943.0	3型機能診断一式、3型改修一式	56,900	R2-R4
15	白原・底名	竹富町	町	161.0	貯水池改修一式、畑地かんがい排水施設改修一式	91,000	R2-R4
	小計	7地区		-		1,498,900	
	計	15地区		-	県営5地区 3,491,300千円、団体営10地区 1,862,700千円	5,354,000	

(4) 農山漁村の地域社会の維持・向上

地域共同で行う地域資源（農地、水路、農道等）の多面的機能を支える活動及び高齢化や人口減少が著しい中山間地域等における農業生産活動に対する支援、地域住民の活性化を図るための地域住民活動を推進する人材の育成に対する支援を行う。



農道管理



排水路管理



ふる水基金活動

番号	地区名	市町村	事業主体	受益面積 (ha)	全体		工期
					事業量	事業費 (千円)	
多面的機能支払交付金事業【集落活動による、農地周りの水路、農道の長寿命化の活動を支援する】							
1	石垣地区	石垣市	活動組織	742.2	道路路肩・法面の草刈作業等	-	R1-R5
2	石垣第2地区	石垣市	活動組織	2758.6	道路路肩・法面の草刈作業等	-	R1-R5
3	上原西表地域	竹富町	活動組織	25.3	道路路肩・法面の草刈作業等	-	H30-R4
	小計	3地区		-		-	
中山間地域等直接支払事業【集落活動による農業生産活動や体制整備活動を支援する】							
4	与那国地区	与那国町	活動組織	382.7	道路路肩・法面の草刈作業等	-	R2-R6
5	上原西表地域	竹富町	活動組織	25.3	道路路肩・法面の草刈作業等	-	H29-R3
	小計	2地区		-		-	
ふるさと農村活性化基金事業【地域住民活動の活性化を図ること、土地改良施設の多面的機能のPRを目的とする】							
6	伊原間	石垣市	県	-	地域の除草・清掃活動、フナクヤハーリーを通じた地域リーダーの育成	-	H28-R2
7	野底	石垣市	県	-	野底ついで祭りの開催、農業体験を通じた地域リーダーの育成	-	H30-R4
8	伊原間	石垣市	県	-	伊原間集落の伝統行事、農業体験を通じた地域リーダーの育成	-	R2-R6
	小計	3地区		-		-	
農業集落排水事業【下水道の適正な施設運営、維持管理を図る】							
9	波照間	竹富町	町	600.0	污水处理施設機械 一式、中継ポンプ等 一式	257,000	R1-R5
	小計	1地区		-		257,000	
農業経営高度化支援事業【農地利用集積の促進】							
10	米節東	石垣市	区	22.4	農家意向調査調整活動費、農地集団化調整活動費	23,400	H20-R2
11	大座	石垣市	市	52.1	農家意向調査調整活動費、農地集団化調整活動費	36,000	H24-R4
12	与那良原	竹富町	町	20.7	農家意向調査調整活動費、農地集団化調整活動費	21,900	H24-R3
	小計	3地区		-		81,300	
	計	12地区		-		338,300	

(5) 赤土等流出防止対策

沖縄県は、侵食性の高い土壌が広く分布し、降雨強度が高く、また河川から海域までの延長が短く急な地形が多いなどの自然条件から、土壌浸食に対する危険性の高い地域となっている。そのため、雨が降ると赤土等が大量に流れ出し、河川・海域を赤く染める「赤土等流出」が、水域の生態系、水産業、観光産業などへ悪影響を及ぼしており、重大な環境問題の一つとなっている。

平成7年には「沖縄県赤土等流出防止条例」を施行して、一定以上の開発行為に対し規制を設ける等、赤土対策を強化してきたが、既存農地等については条例の規制対象外であり、赤土等の流出防止対策にかかる個々の農家の費用負担や労力の問題があるために、対策が難しい状況にある。

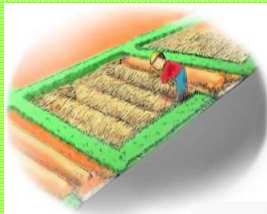
そのため、県では農地からの赤土等流出防止対策を重要な課題とし、その対策を図るため、ハード・ソフト対策の連携を取りつつ、カバークロープの導入や「土壌保全の日」の活動を通して農家への赤土等流出対策の啓発・普及等を実施してきた。平成14年度から平成16年度には「流域環境保全農業確立体制整備モデル事業」を石垣市轟川流域を対象に「モデル試行対策」を実施し、平成17年度から平成19年度には石垣島全域を対象に「土地利用者参加による赤土等流出総合対策開発事業」を実施している。現在は、平成19年度に策定された「石垣島赤土等流出防止農地対策マスタープラン」の数値目標を達成するために、営農対策及び土木対策により総合的な赤土等流出防止に取り組むとともに、平成22年度には「竹富町赤土等流出防止農地対策マスタープラン」が西表島と小浜島で策定され、離島地域の赤土等流出防止推進を図っている。

営農対策

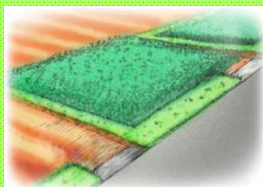
土木対策



グリーンベルト



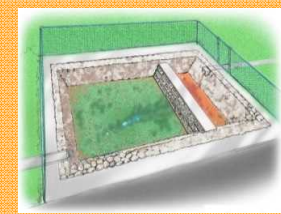
葉ガラ



緑肥



勾配修正



沈砂池



排水路

番号	地区名	市町村	事業主体	受益面積 (ha)	全体		工期
					事業量	事業費 (千円)	
県営水質保全対策事業(耕土流出防止型)【農地からの耕土流出を防ぐ】							
1	白保	石垣市	県	218.8	排水路工 L=11,270m、グリーンベルト工 L=10,265m 畦畔工 L=3,650m、浸透池工 8基	983,000	H24-R2
2	新川第4	石垣市	県	124.8	排水路工 L=11,165m、グリーンベルト工 L=13,955m、土層改良工 A=20.0ha 沈砂池工 1基、浸透池工 6基	1,099,000	H25-R3
	計	2地区		-		2,082,000	

赤土等流出防止のための様々な対策(工種)



浸透池



グリーンベルト (ゲットウ)



勾配修正



グリーンベルト (ベチバー)

7 気象災害

【令和2年 台風第4号】

8月1日15時に沖縄の南で発生した台風4号は、発達しながら北西に進み、2日明け方に西表島付近を通過した。最大風速は、石垣島（石垣市登野城）で3日07時26分に南南西の風27.2m/s、波照間（竹富町波照間）で3日07時31分に南西の風24.0m/s、大原（竹富町大原）で3日07時45分に南南西の風23.2 m/s を観測した。

最大瞬間風速は、大原（竹富町大原）で3日06時20分に南南西の風37.9m/s、石垣島（石垣市登野城）で3日07時22分に南南西の風36.4m/s、波照間（竹富町波照間）で3日07時00分に南西の風34.4m/s を観測した。

台風第4号による被害状況(耕種・畜産・水産業)の概況

①八重山地域

被害額：千円

項目		石垣市	竹富町	与那国町	合計
耕種	さとうきび	9,233	8,630	487	18,350
	野菜	6,270	0	0	6,270
	果樹	456	0	0	456
	計	15,959	8,630	487	25,076
畜産	計	0	0	0	0
水産業	漁船				0
	施設等被害	0	600	0	600
	水産物等被害	2,247	0	0	2,247
	漁港護岸等	1,000	0	0	1,000
	計	3,247	600	0	3,847
合計		19,206	9,230	487	28,923

②市町村別

【石垣市】

項目		被害面積等 (ha)	被害量 (トン・千本)	被害額 (千円)	備考
耕種	さとうきび	1,287.0	427.0	9,233	被害率0.6%
	野菜	11.0	6.6	6,270	オクラ等
	果樹	1.4	1.1	456	バナナ等
	計	1,299.4	434.7	15,959	
畜産	計	0	0	0	
水産業	水産物等被害		1件	2,247	クルマエビ
	漁港護岸等		1件	1,000	石垣漁港 船棧橋
	計			3,247	
合計		1,299.4		19,206	

【竹富町】

項目		被害面積等 (ha)	被害量 (トン・千本)	被害額 (千円)	備考
耕種	さとうきび	471.0	400.0	8,630	被害率1.5%
	計	471.0	0.0	8,630	
畜産	計	0	0	0	
水産業	施設等被害		2件	600	漁具倉庫、クルマエビ養殖施設
	計	0.0	0.0	0	
合計		471.0	400.0	8,630	

【与那国町】

項目		被害面積等 (ha)	被害量 (トン・千本)	被害額 (千円)	備考
耕種	さとうきび	99.0	23.0	487	被害率0.5%
	計	99.0	23.0	487	
林業	計	0.0	0.0	0	
水産業	計	0.0	0.0	0	
合計		99.0	23.0	487	